

鳴門市人口ビジョン★ 2020

令和2年3月
鳴門市

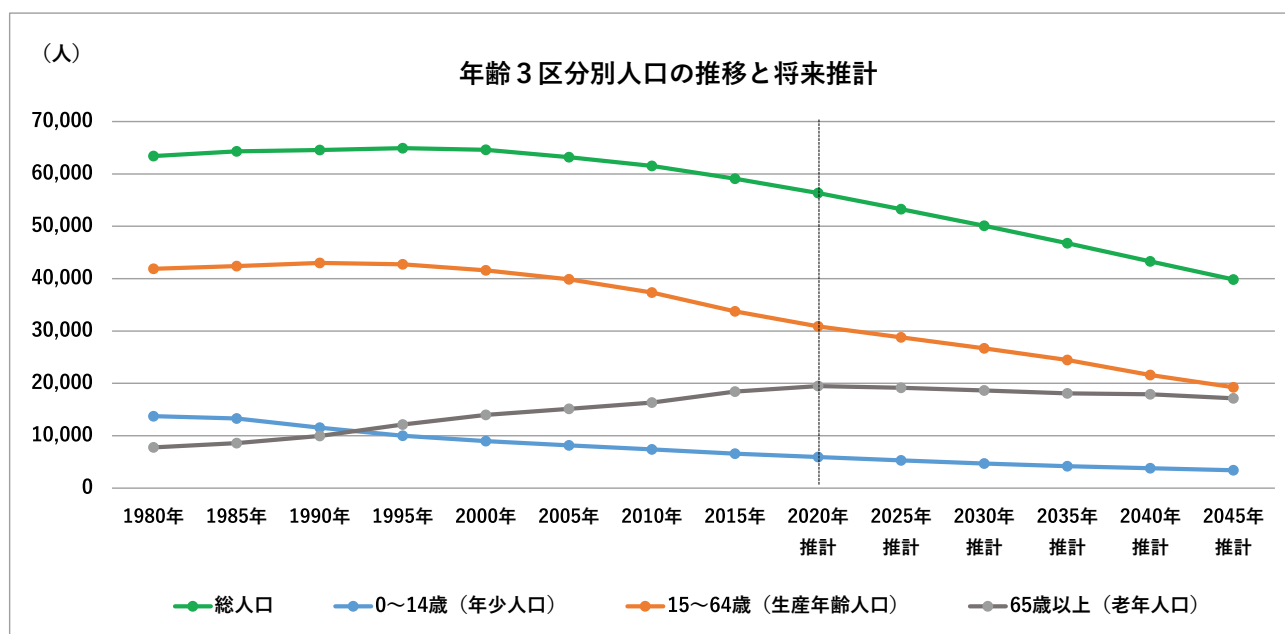
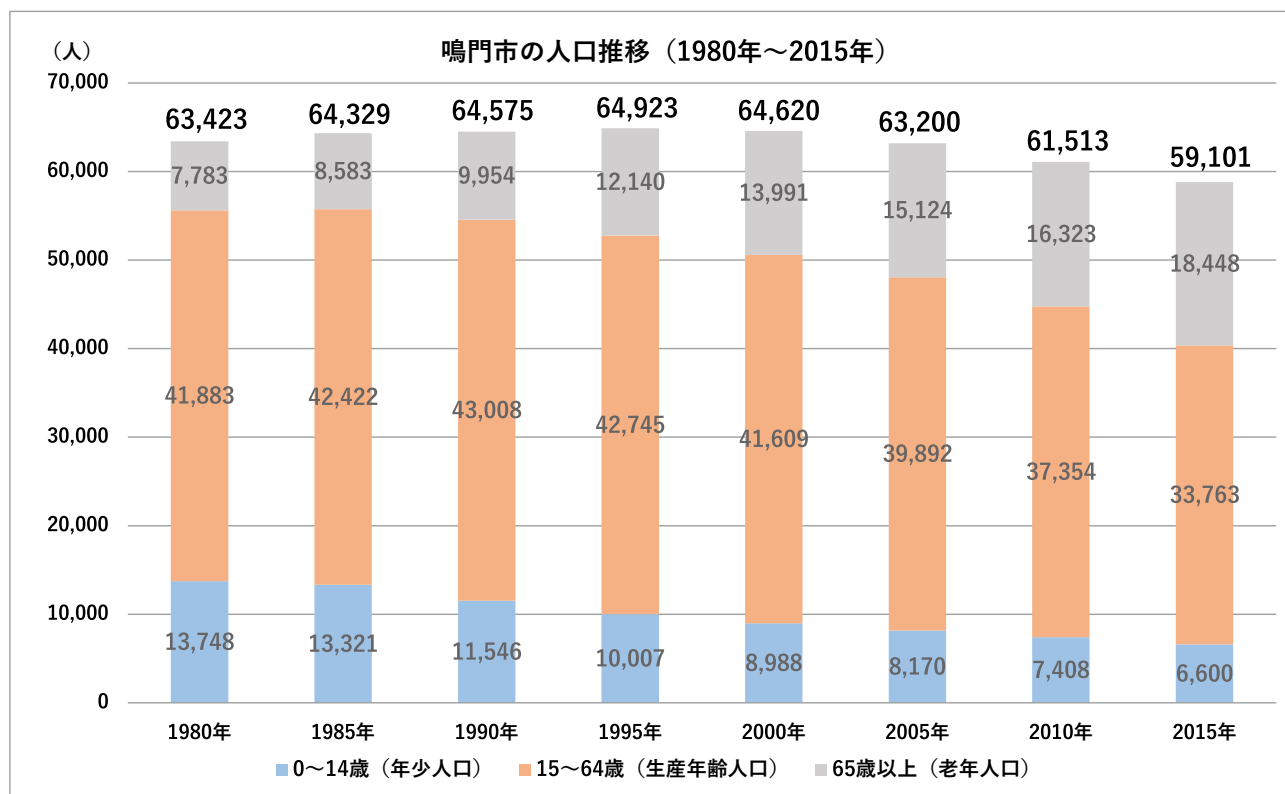
目 次

第1章 鳴門市の人口	1
1 総人口の推移と年齢3区分別人口の推移	1
2 鳴門市の人口ピラミッド	2
第2章 鳴門市の人口動態	4
1 自然動態の推移	4
2 社会動態の推移	6
3 鳴門市における転入転出の分析	10
第3章 鳴門市の産業別人口	12
1 就業者数の推移	12
2 男女別産業別人口の状況	13
3 年齢階級別産業人口の状況	14
4 通勤・通学先の状況	15
第4章 鳴門市の人口推計	16
1 鳴門市の人口減少段階	16
2 鳴門市人口推計のシミュレーション	17
3 鳴門市の総人口分析	18
4 老年人口比率の分析	19
5 鳴門市の目標人口	20
(参考) アンケート調査結果	21
転入・転出アンケート結果	21
高校生アンケート結果	26
市民及び市内在勤者アンケート結果	28

第1章 鳴門市の人口

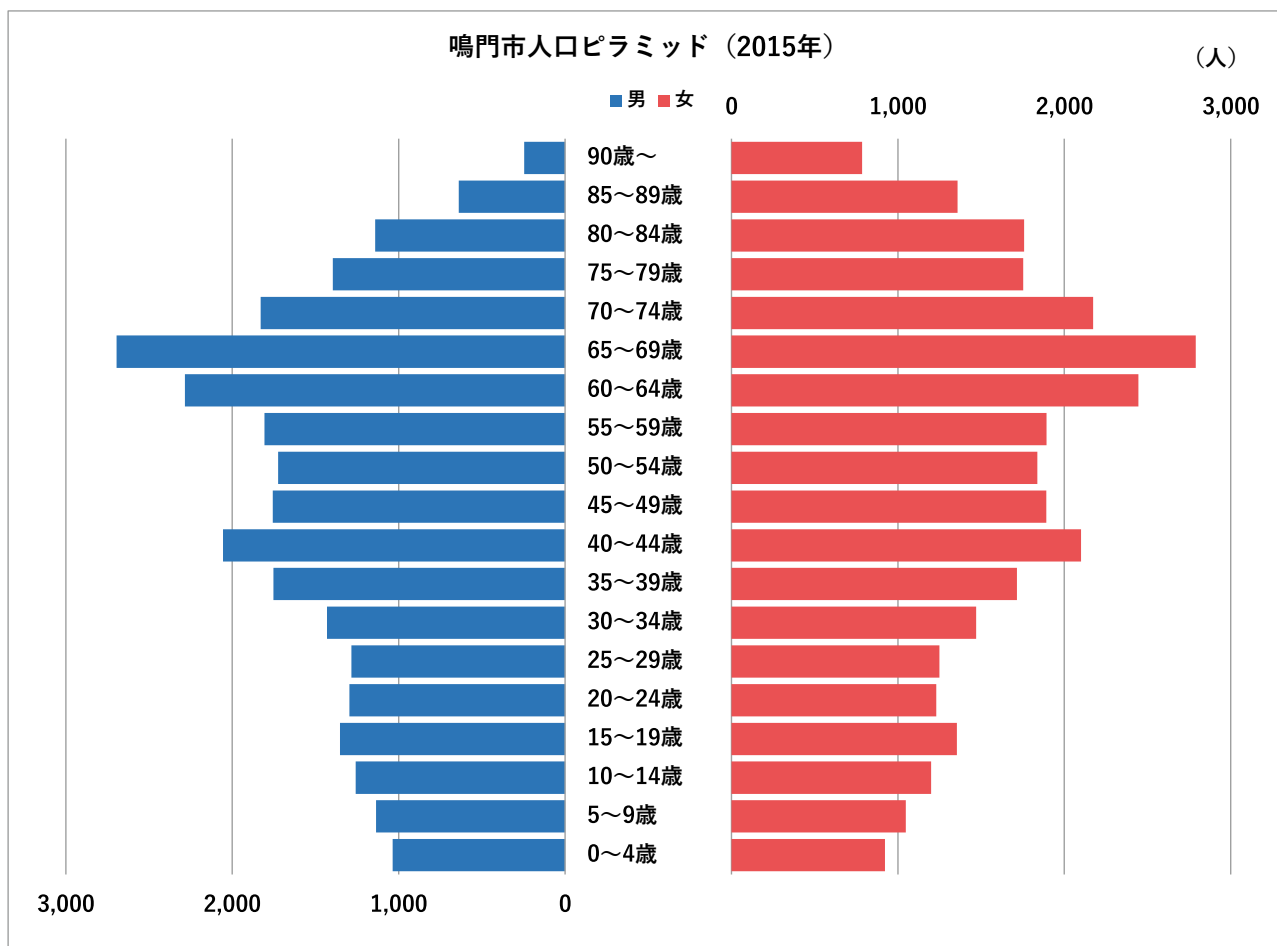
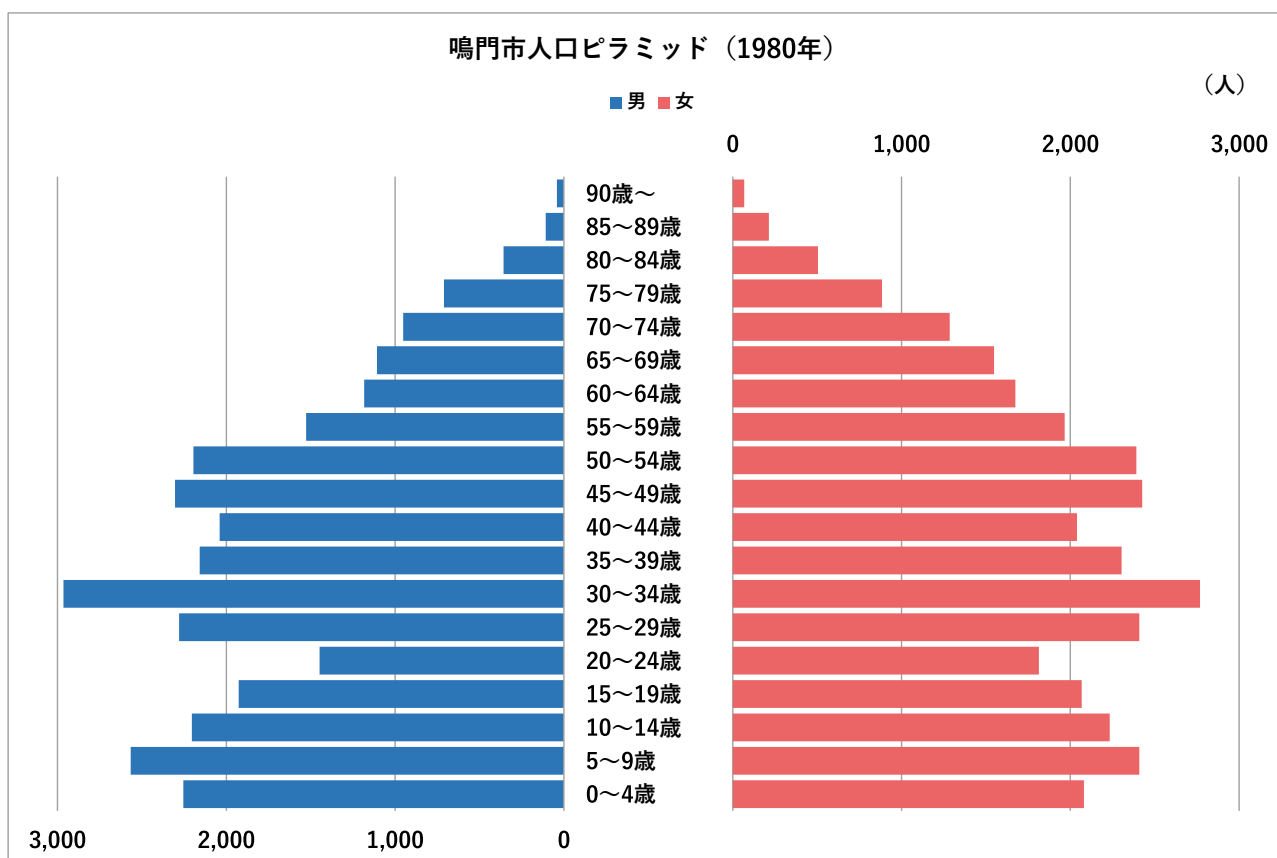
1. 総人口の推移と年齢3区分別人口の推移

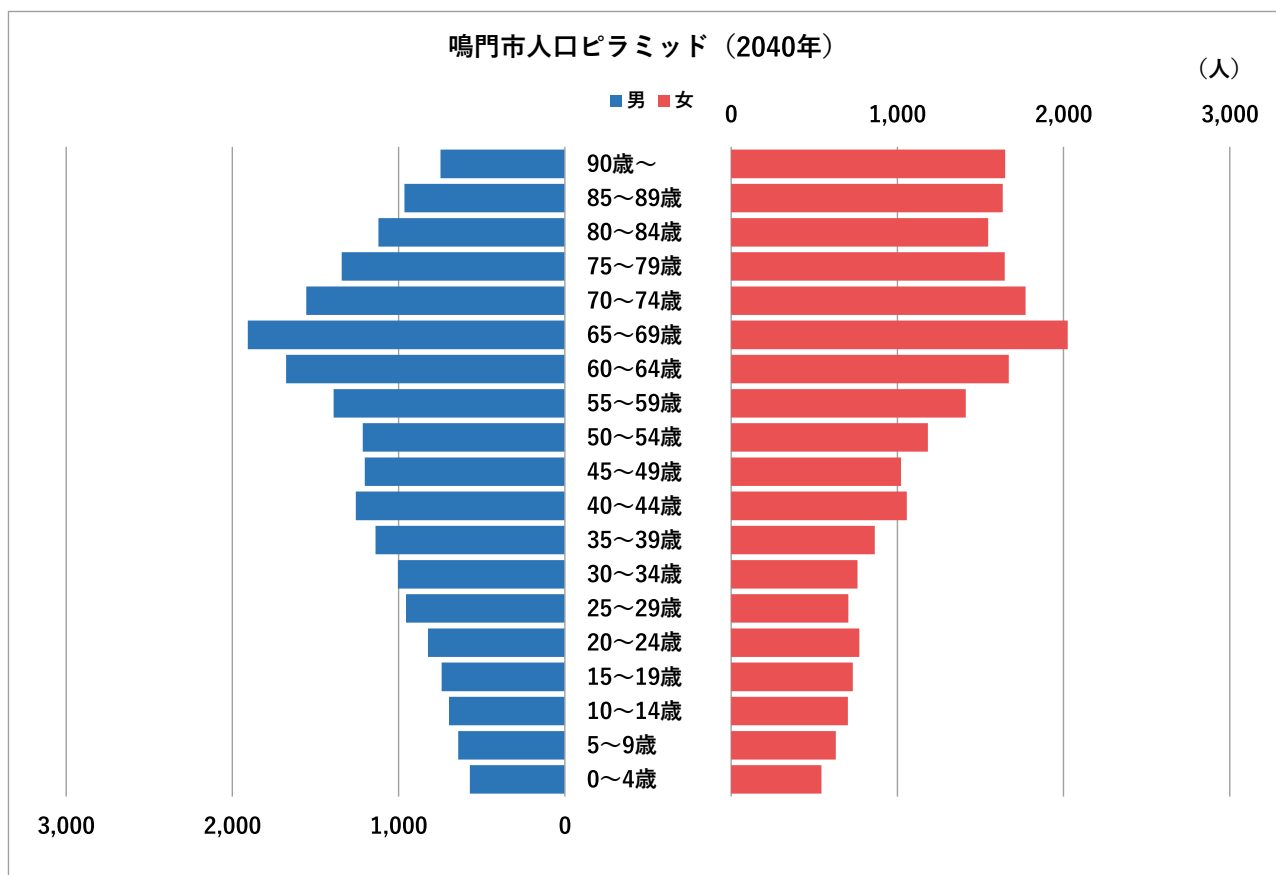
本市の総人口は、1995年の64,923人をピークにその後減少傾向にあり、2015年の国勢調査では、59,101人となっています。また、年齢3区分別の人口でみると、生産年齢人口（15～64歳）は、1980年から1990年にかけて増加していましたが、1990年の43,008人をピークに減少傾向が続いています。年少人口（0～14歳）は1980年から一貫して減少傾向、老年人口（65歳以上）は一貫して増加傾向にあり、1995年には老年人口が年少人口を上回り、今後もさらに少子高齢化が進むことが予想されます。



（出典）2015年までの総人口、3区分人口は国勢調査より。2020年以降の総人口、3区分人口は社人研推計値を使用。

2. 鳴門市の人口ピラミッド





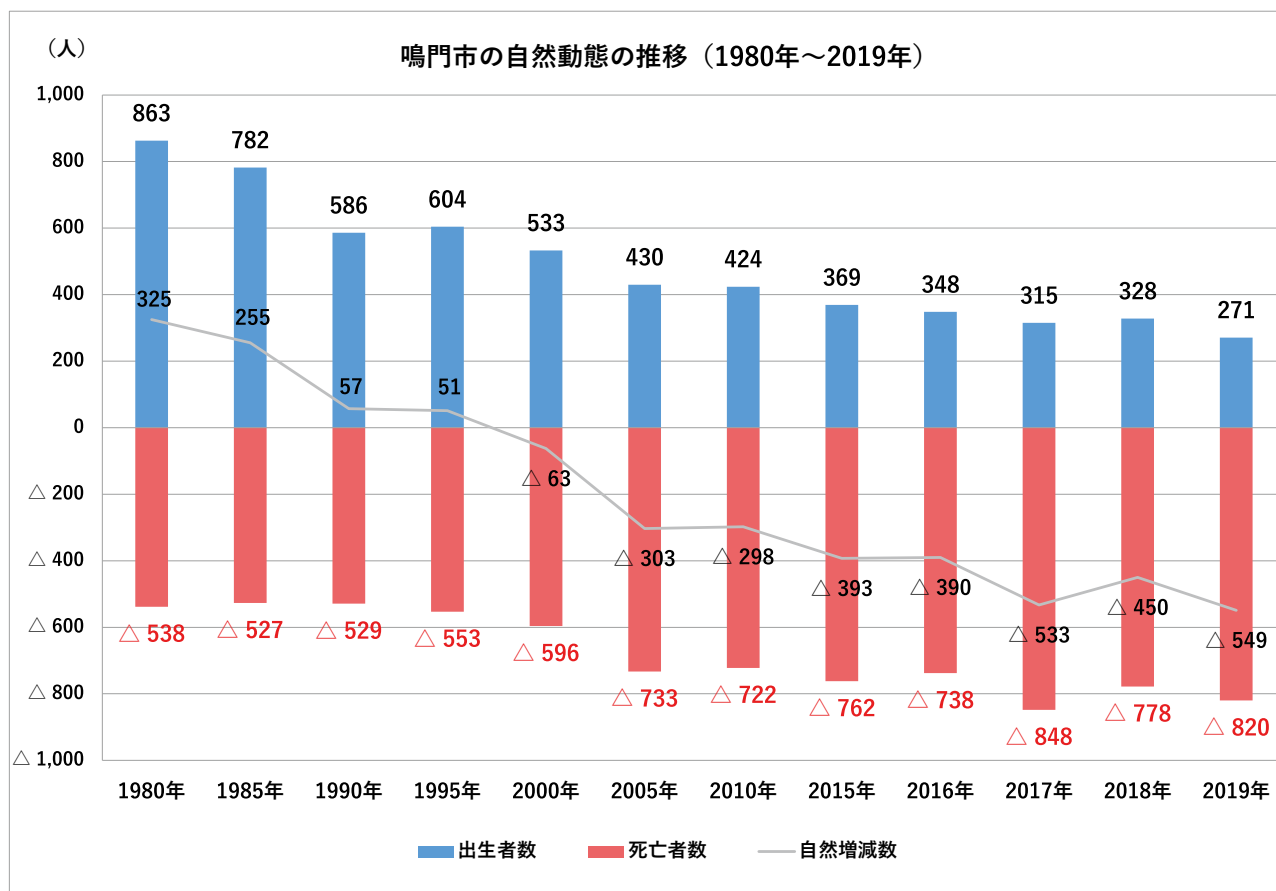
（出典）1980年及び2015年は国勢調査より。2040年は社人研推計値を使用。

人口ピラミッドの変化を見ると、1980年は、年少人口や生産年齢人口が多く、老年人口が少ない「星型」でしたが、2015年の人口ピラミッドは、年少人口と若年層が少なく65歳以上の老年人口が膨らむ「つぼ型」に変化しており、この35年間で少子高齢化が顕著に表れています。

2040年の推計では、男女とも65～69歳人口が最もピークとなっています。全体としてピラミッドが小さく、全世代の人口が縮小していることが分かります。

第2章 鳴門市の人口動態

1. 自然動態の推移



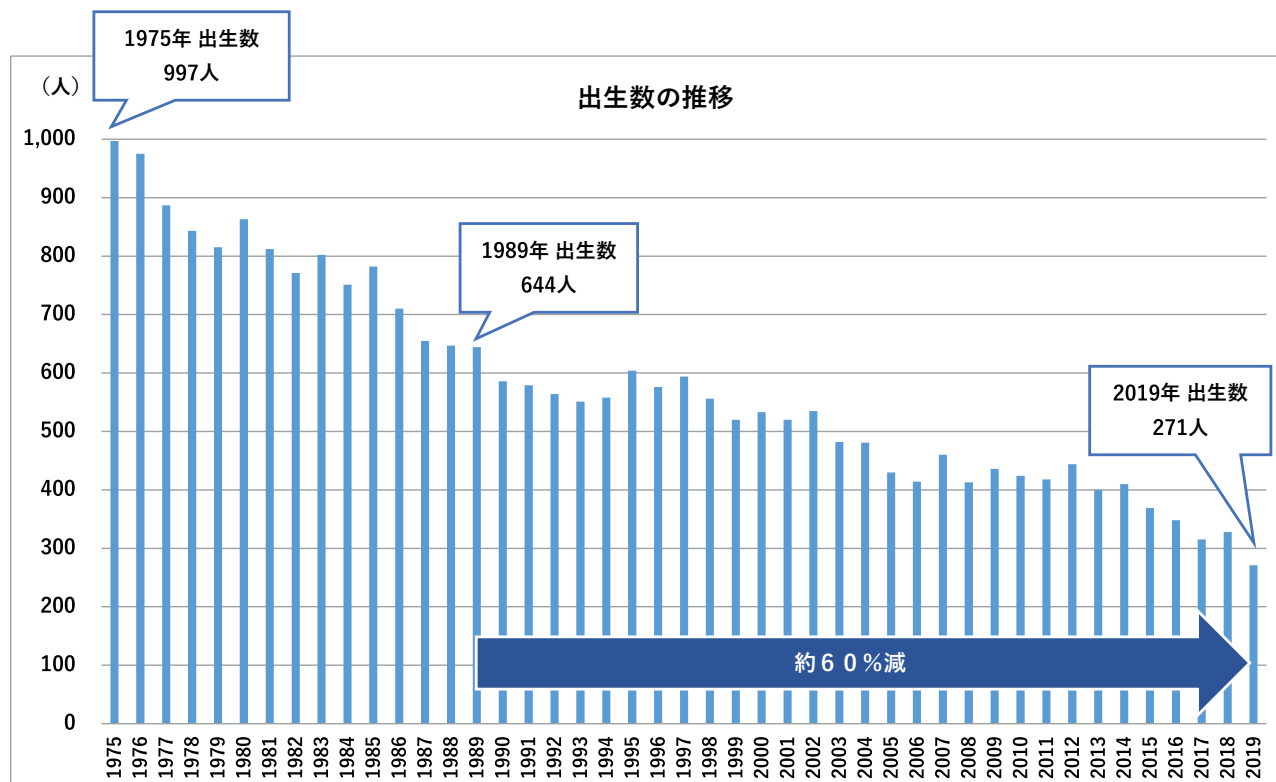
（出典）徳島県の推計人口

自然動態の推移をみると、1995年までは出生数が死亡者数を上回り自然増となっています。

2000年以降は、自然減に転じ、2005年には、自然減が300を上回るようになり、2015年以降は自然減がおよそ400にまで増えています。

今後もこの傾向は続く見込みであり、鳴門市における自然減はますます大きくなる予想です。

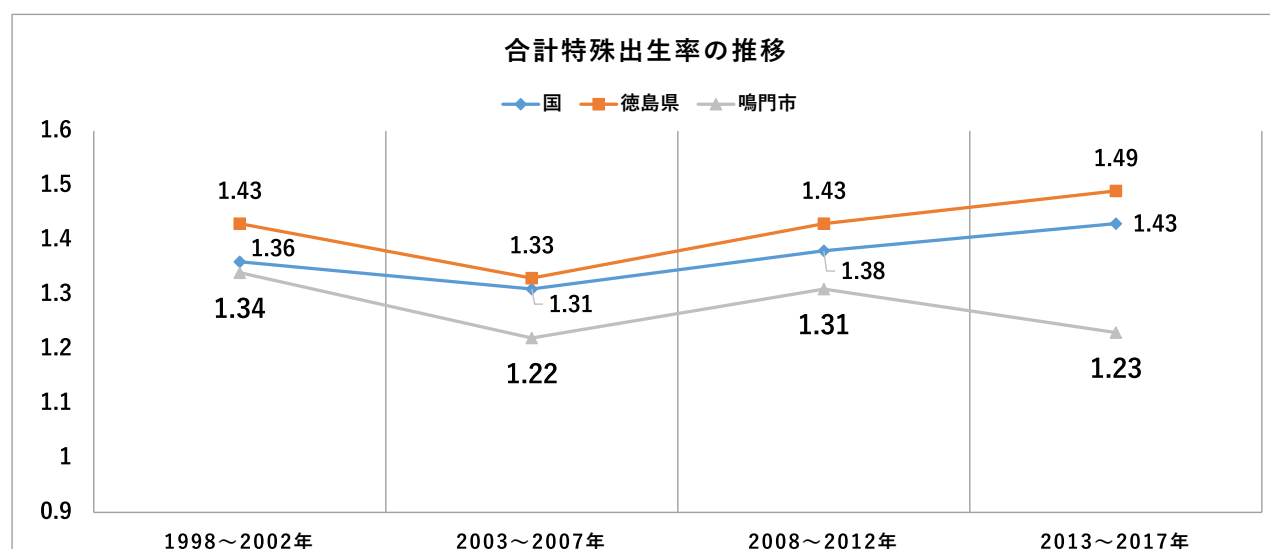
1-1. 出生数の推移



(出典) 徳島県の推計人口

出生数は、1975年以降、一貫して減少傾向にあります。2019年に本市で生まれた子どもの数は271人で、1975年から約3分の1以下となり、1989年からの31年間で約60%減となっています。

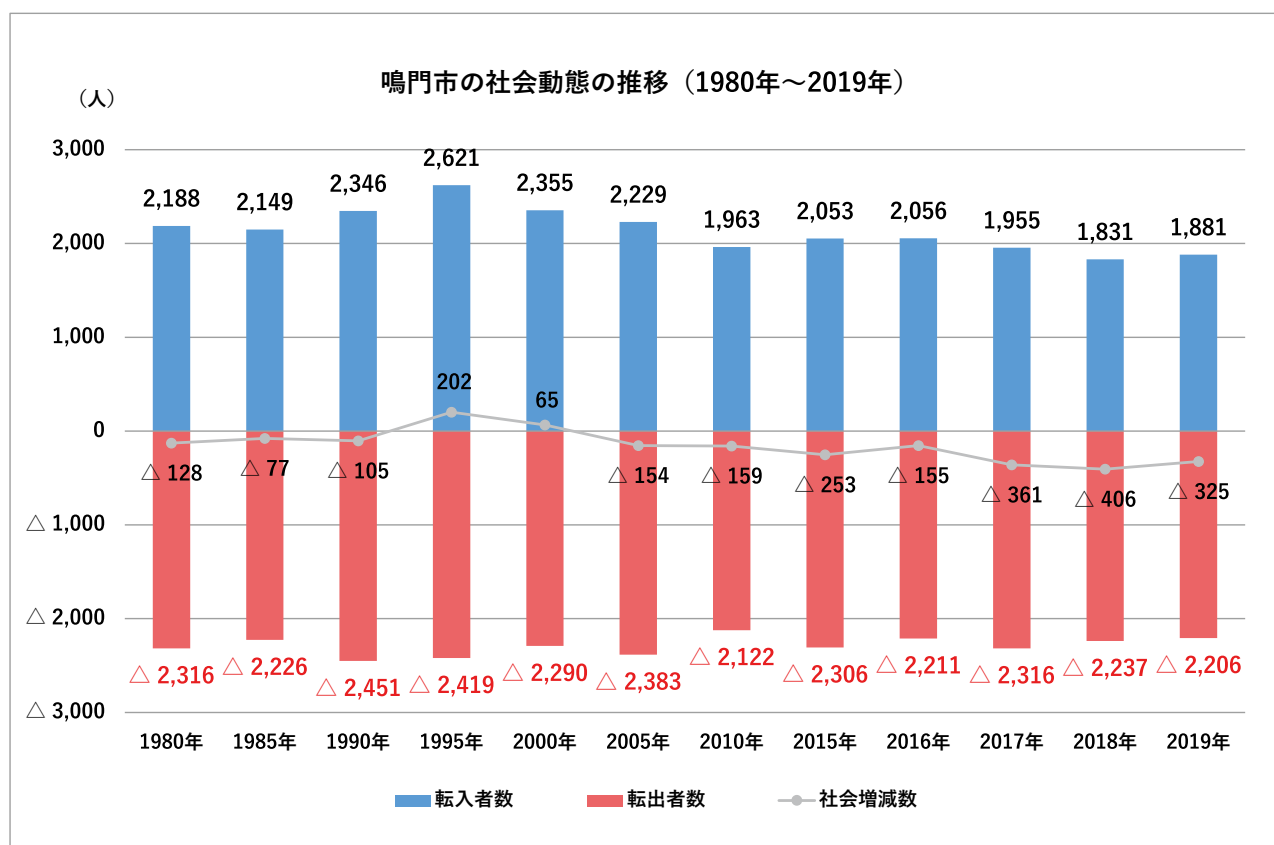
1-2. 合計特殊出生率の推移



(出典) 全国及び徳島県 国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」、厚生労働省「人口動態統計」
鳴門市 徳島保健所「徳島県人口動態システム平成29年版」

鳴門市の合計特殊出生率は、国及び徳島県が上昇傾向にあるのに対し、2008~2012年で上昇したものの、2013~2017年で再び低下しています。

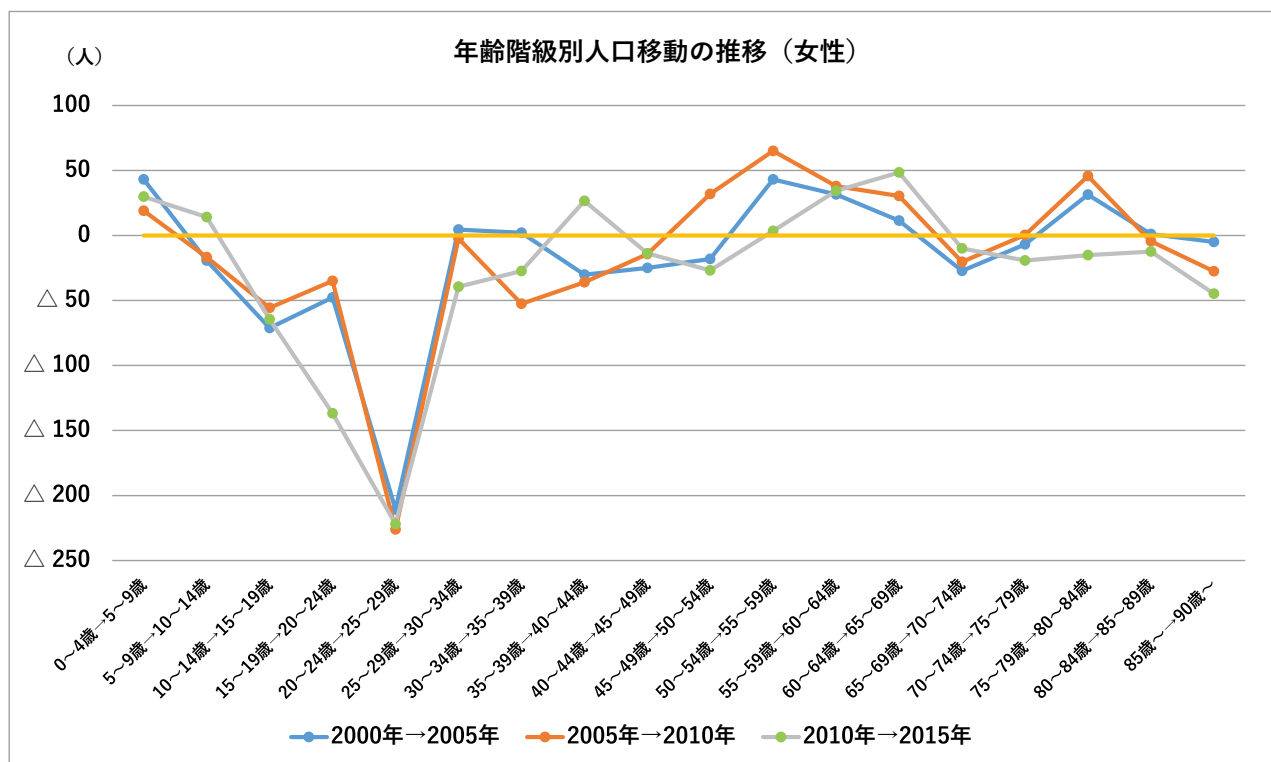
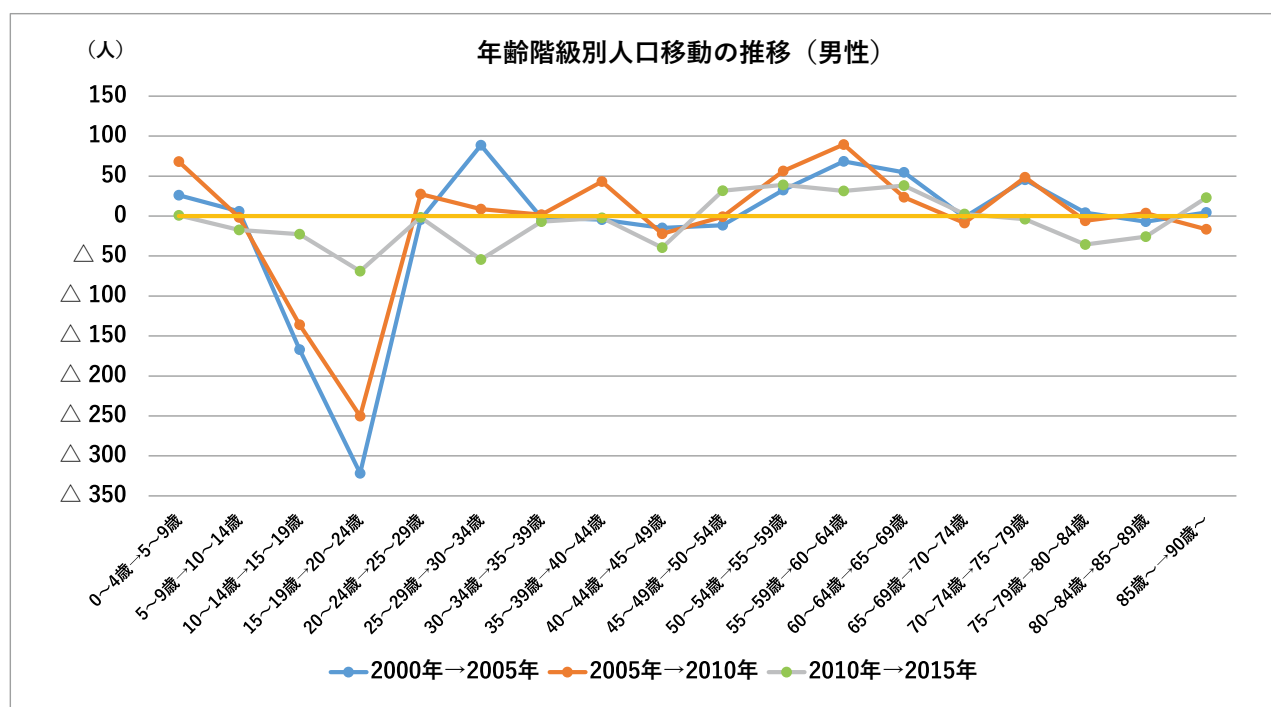
2. 社会動態の推移



（出典）徳島県の推計人口

これまでの社会動態の推移をみると、2000年までは転入者数が転出者数を上回る転入超過（社会動態がプラス）の年もありましたが、2005年以降は転出超過（社会動態がマイナス）が続いています。また、近年の転出超過数についても年々増加傾向にあります。

2-1. 年齢階級別人口移動の推移

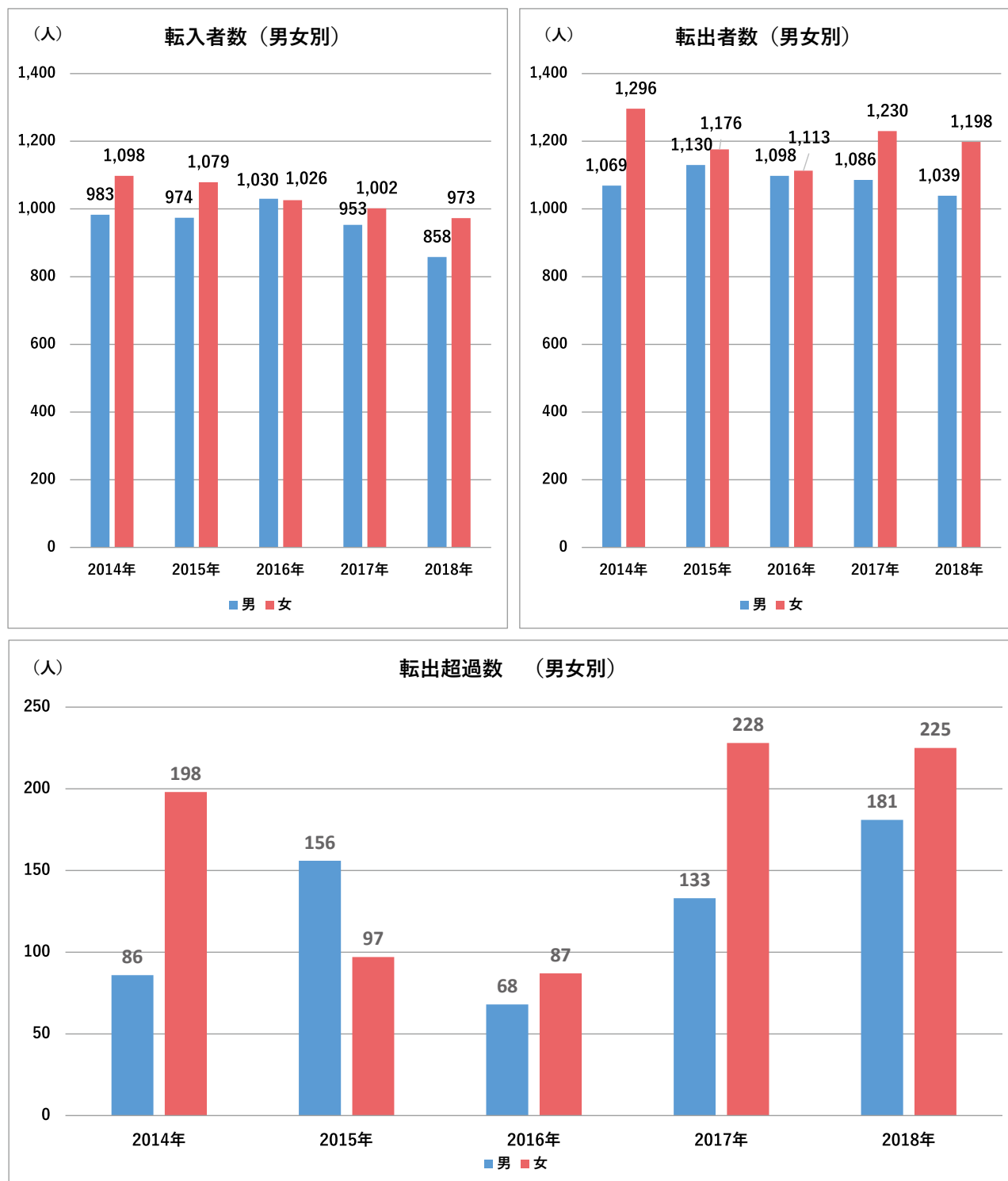


（出典）徳島県の推計人口

年齢階級別人口移動の推移を見ると、男性については2010年までは、10代が転出超過となっていました。2015年には回復傾向にあり、転出超過数は大きく減少しています。また、女性については10代後半から20代後半にかけて大幅な転出超過となっており、近年も同様の傾向が続いています。

10代後半から20代前半の転出超過は、大学等への進学によるものであり、20代から30代後半の転出超過については、就職、結婚、転職等を機としたものであると考えられます。

2-2. 男女別人口移動の推移

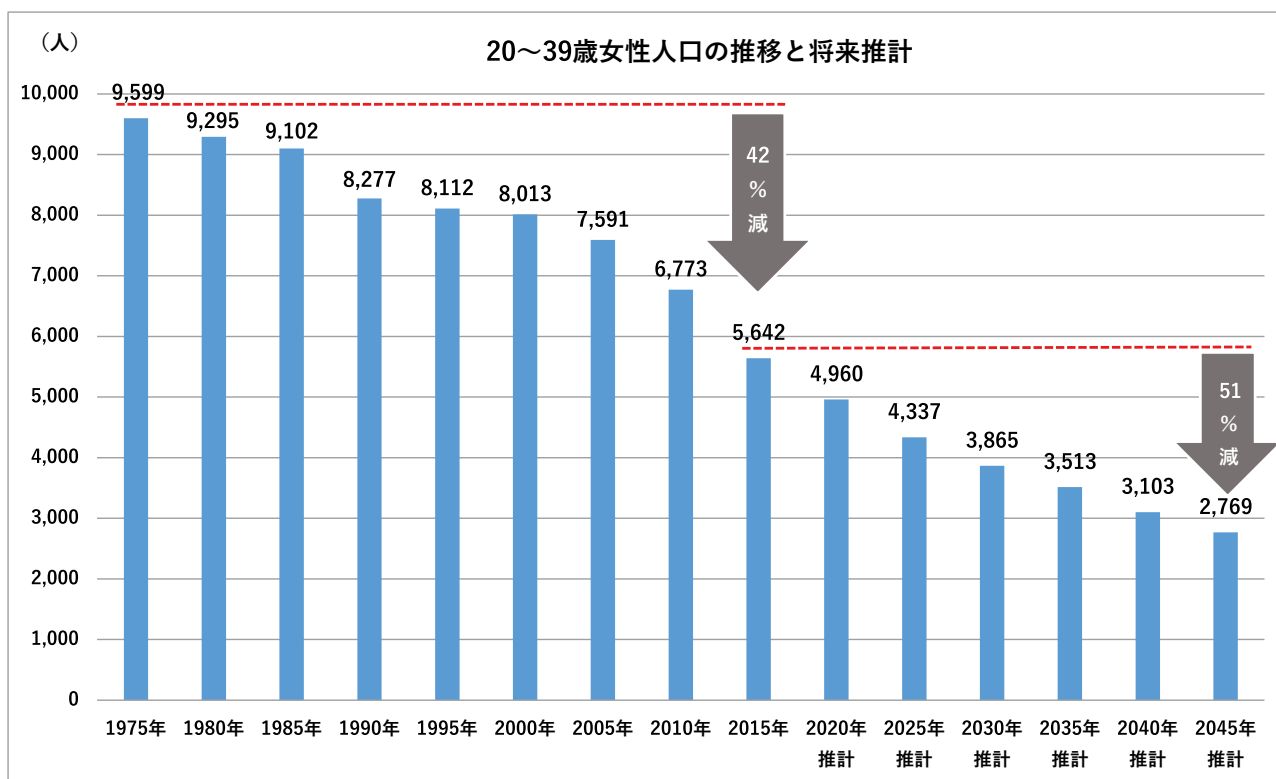
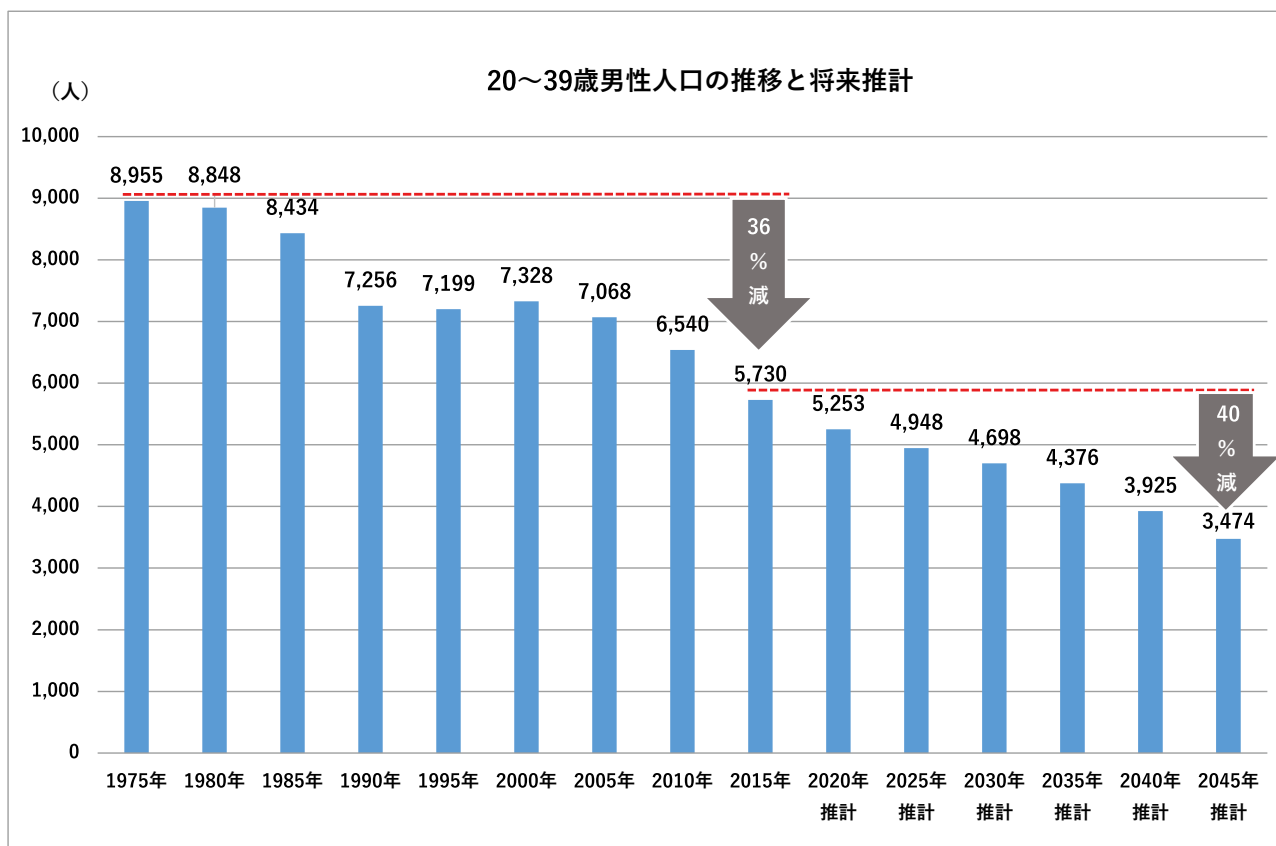


(出典) 徳島県の推計人口

本市への転入者数は、女性は一貫して減少傾向にあるのに対し、男性は年によってバラツキがあります。本市からの転出者数は、毎年女性の転出者数が男性の転出者数を上回っています。

転出超過数は、男女とも2016年に減少に転じていましたが、2017年以降は増加傾向となっています。

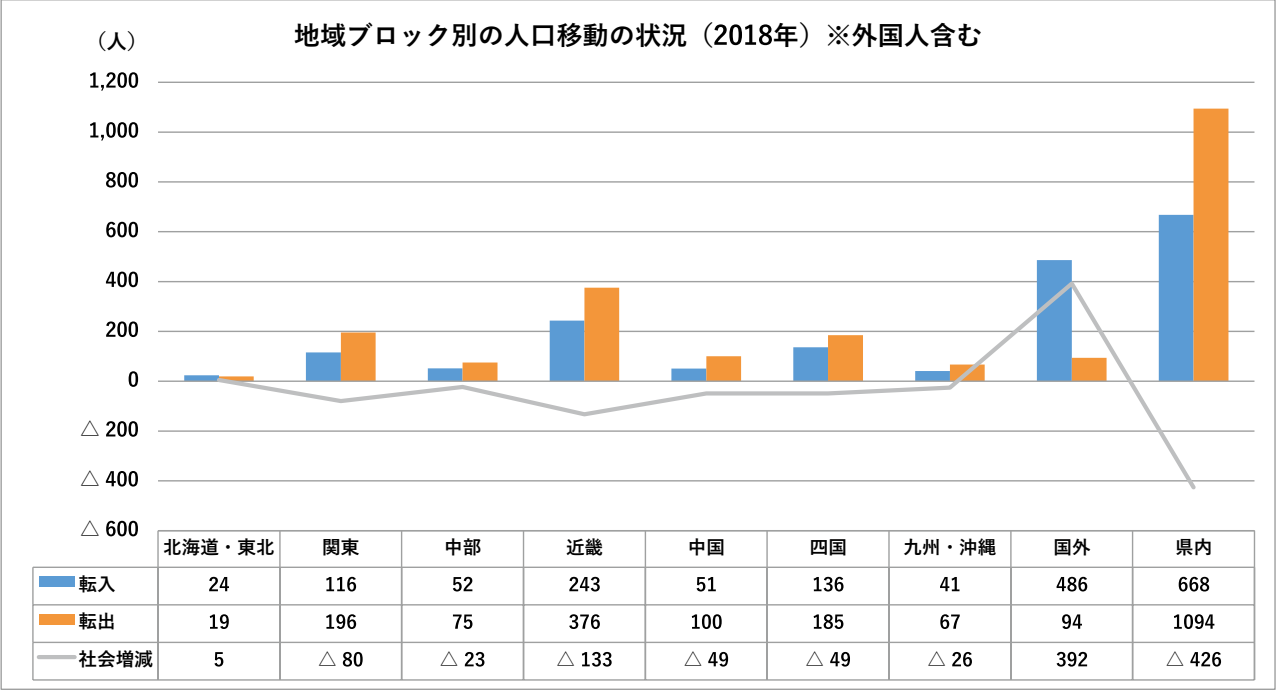
2-3. 20～39歳人口の推移と将来推計



(出典) 2015年までは国勢調査より。2020年以降は社人研推計値を使用。

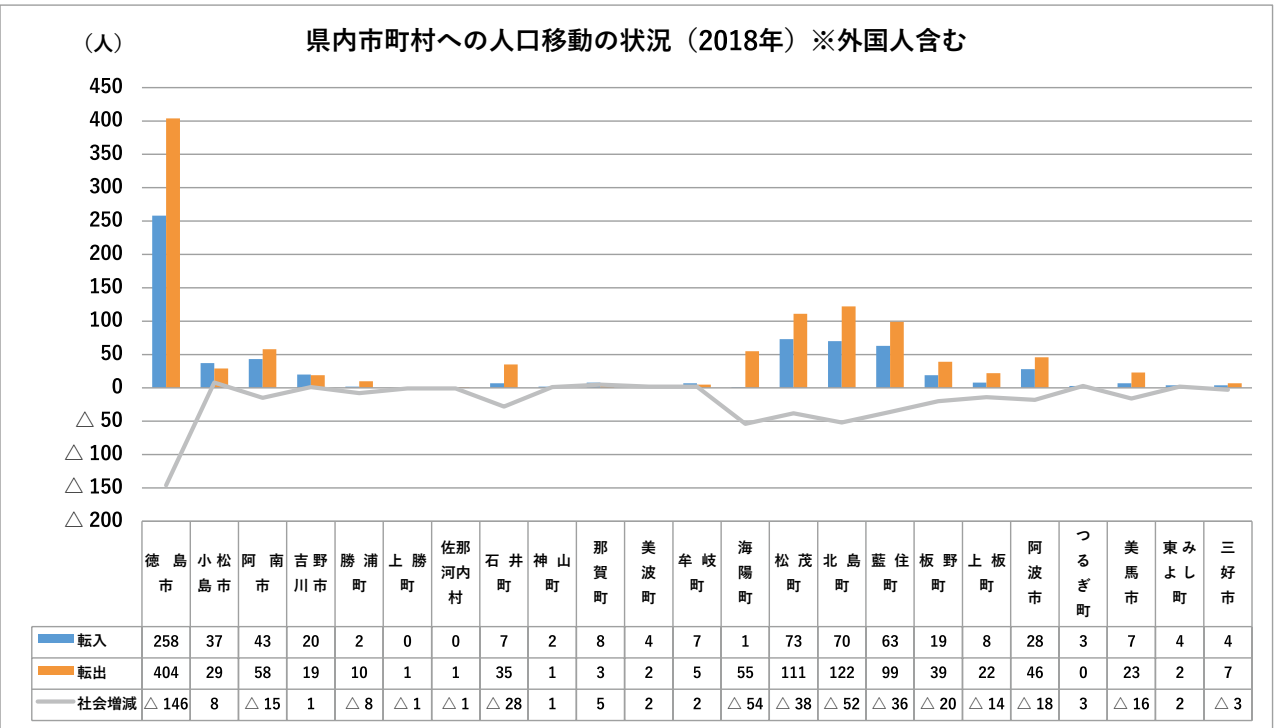
1975年から2015年までの40年間で、20～39歳の人口は男性も女性も約40%近く減少しており、2015年から2045年までの30年間で、女性の20～39歳人口は約半数となる見込みとなっています。

3. 鳴門市における転入転出の分析



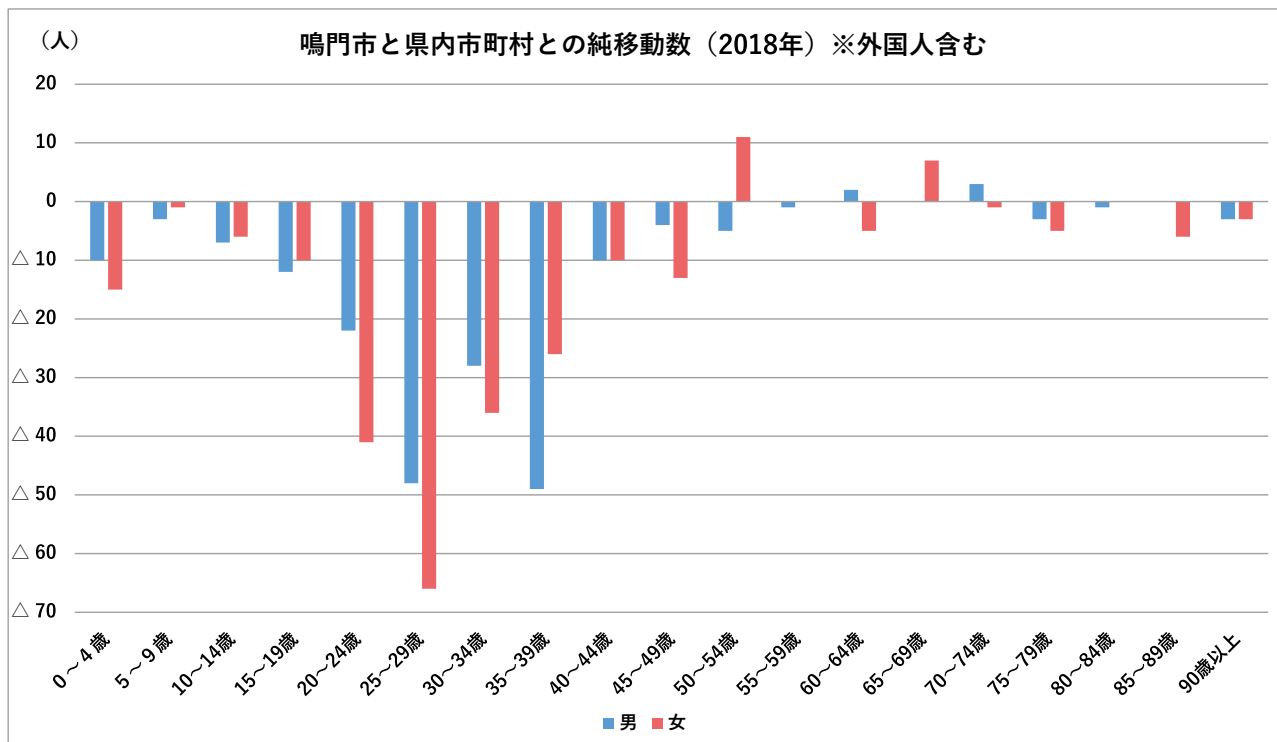
（出典）徳島県の推計人口

本市の人口移動の特徴は、国外からの転入が多く、県内市町村への転出が多いことが分かります。転出超過では、県内市町村の次に、近畿、関東の順に転出超過が多くなっています。



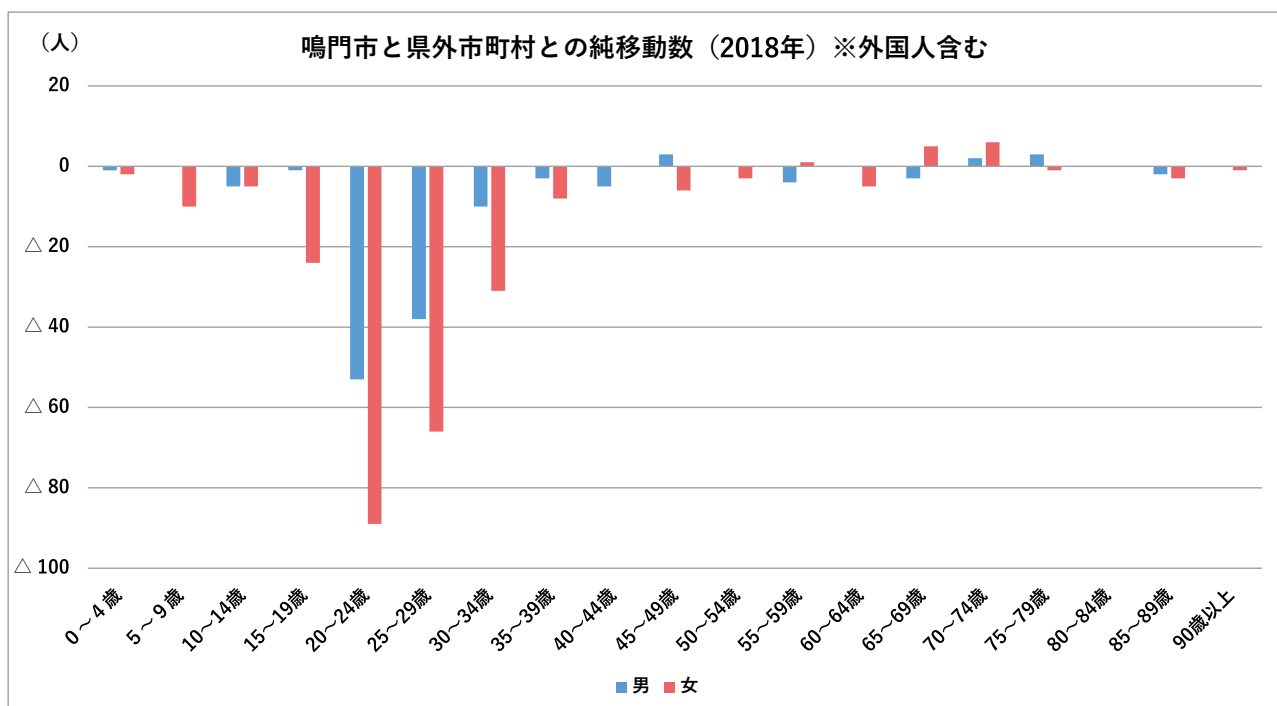
（出典）徳島県の推計人口

県内市町村への人口移動は、徳島市、北島町、松茂町、藍住町への転出が大きく、県庁所在地である徳島市のベッドタウンにある板野郡3町（北島町、松茂町、藍住町）への転出が近年多く見られます。



(出典) 住民基本台帳

本市の県内市町村への人口移動状況は、男性の転出超過のピークが25～29歳、35～39歳、女性の転出超過のピークが25～29歳となっており、特に20代女性の転出が目立ちます。これは、就職や結婚を機としたものと考えられます。男性は女性に比べ35～39歳の転出が多く、転勤や転居を機としたものと考えられます。

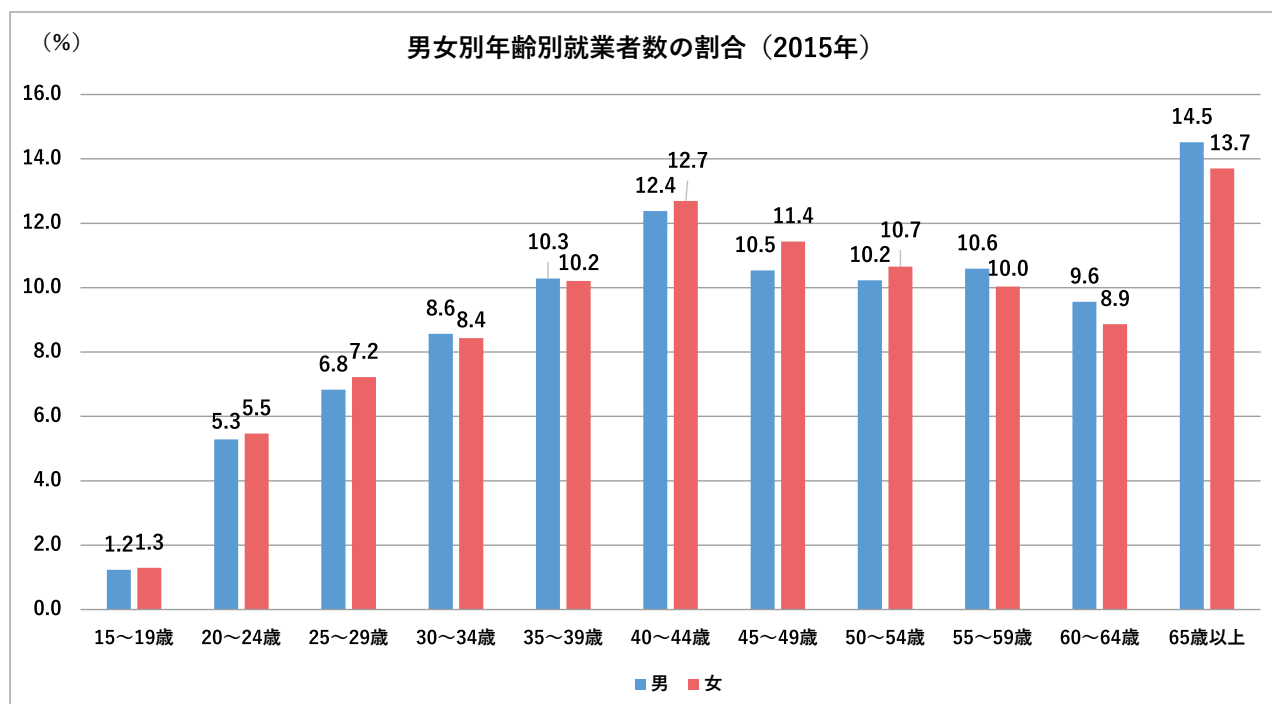
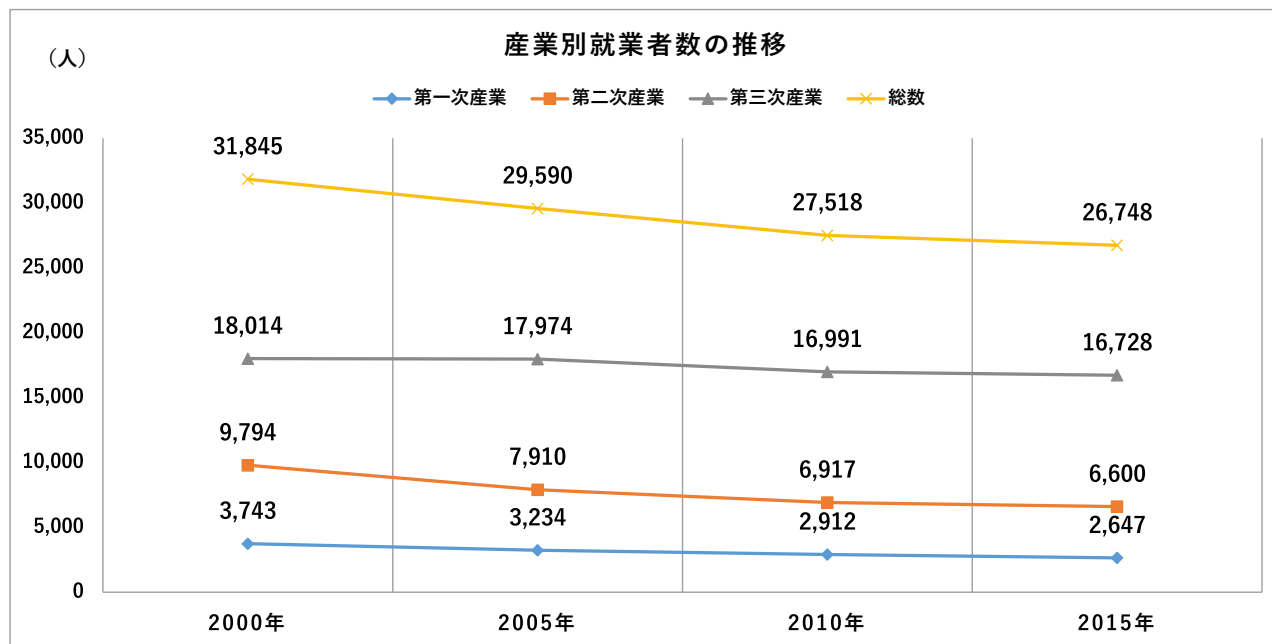


(出典) 住民基本台帳

本市の県外地域への年齢階級別人口移動状況は、男女とも転出超過のピークが20～24歳となっており、特に20代女性の転出が目立ちます。これは、就職や結婚を機としたものと考えられます。また15～19歳の女性の転出も多く、進学を機に県外に転出する女性が多いことが示唆されます。

第3章 鳴門市の産業別人口

1. 就業者数の推移

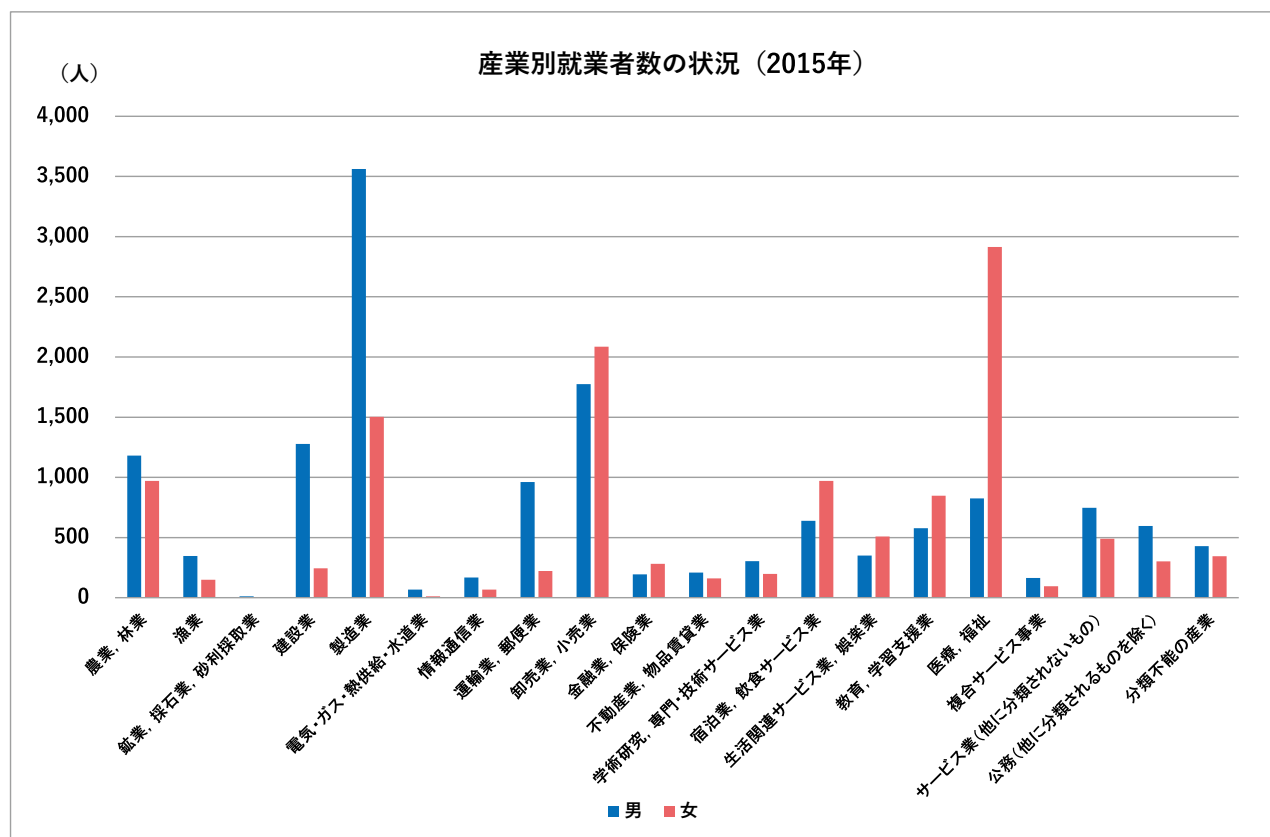


（出典）国勢調査

本市の産業別就業者数は、2000年以降減少しており、2000年から2010年までの10年間で総数は約4,000人の減少となりましたが、2010年から2015年には減少傾向が縮小し、5年間で約800人の減少となっています。

また、2015年の男女別年齢別の就業者数の割合は、男女とも65歳以上の就業者が多くなっており、続いて40～44歳の割合が多くなっています。

2. 男女別産業別人口の状況

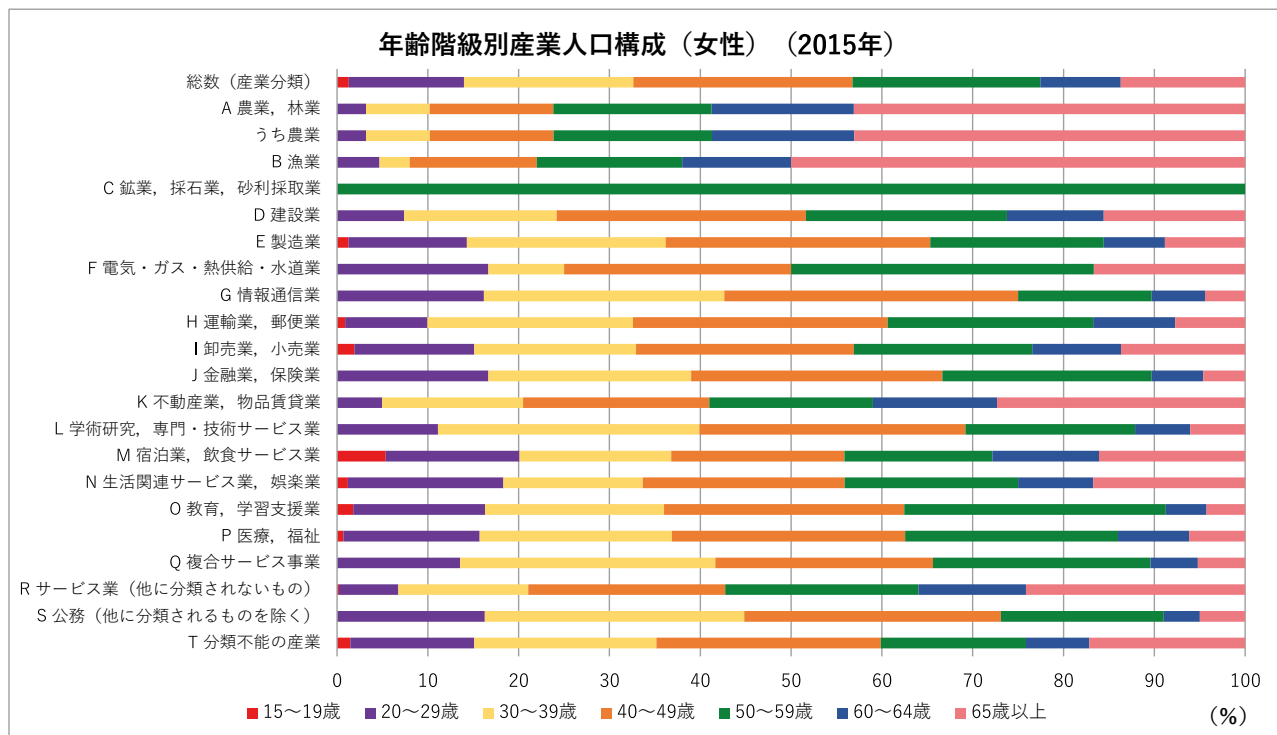
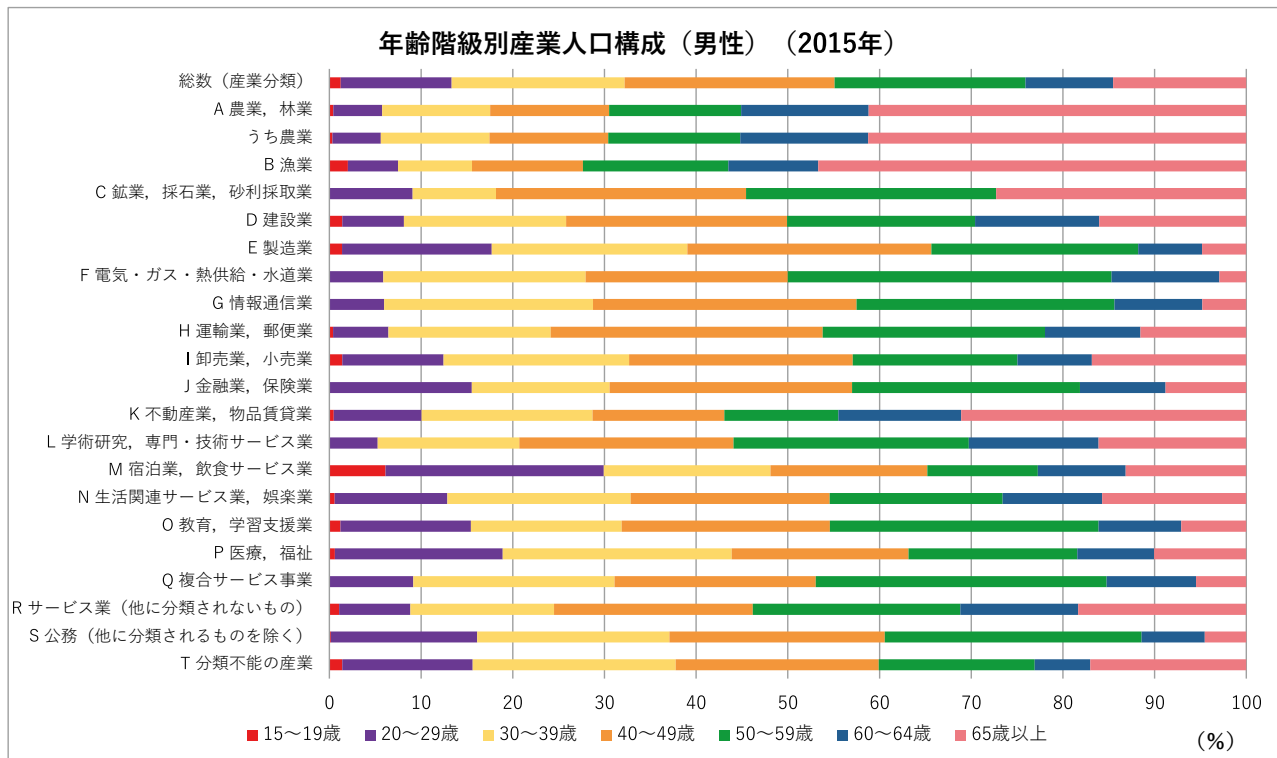


(出典) 国勢調査

2015年の就業者数を男女別に比較すると、男性は、製造業に就業している者が最も多く、次いで卸売業・小売業、建設業、農業・林業となっています。

女性は、医療・福祉に就業している者が最も多く、次いで卸売業・小売業、製造業、農業・林業と宿泊業・飲食サービス業となっています。

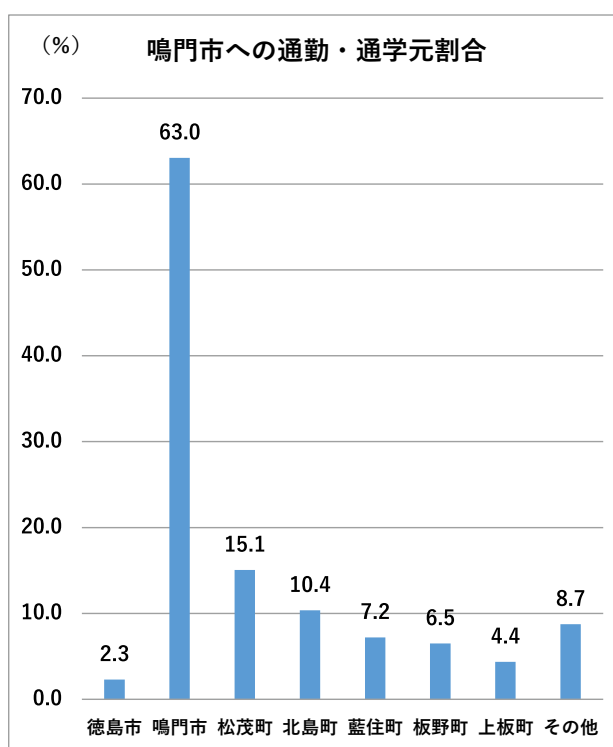
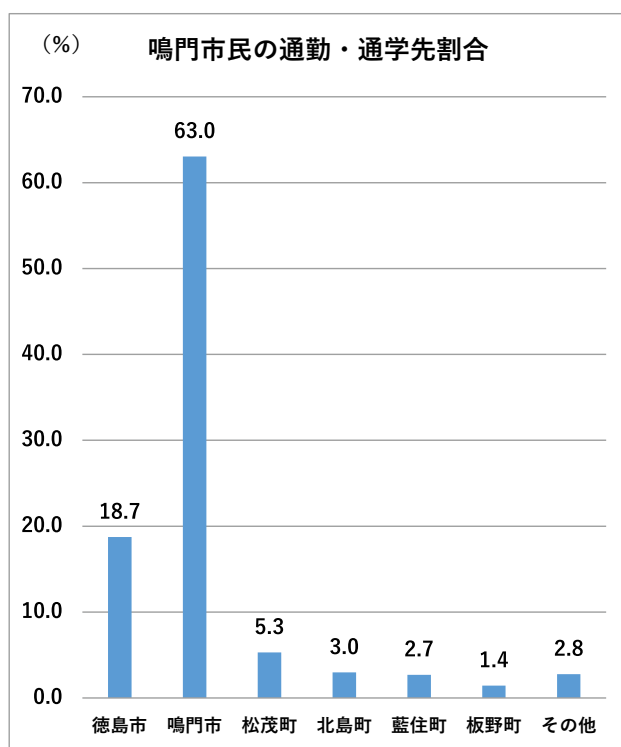
3. 年齢階級別産業別人口の状況



（出典）国勢調査

産業別男女別に年齢階級をみると、男女ともに、農林業、漁業の65歳以上の就業者の割合が40%を超えており、高齢化が進行していることが分かります。また、男性の就業者数が多い製造業、女性の就業者数が多い医療・福祉は、ともに40～49歳の就業者が最も多く、次いで50～59歳となっており、産業人口の構成でみると、20代、30代の若い世代の就業者人口の割合が少なくなっていることがわかります。

4. 通勤・通学先の状況

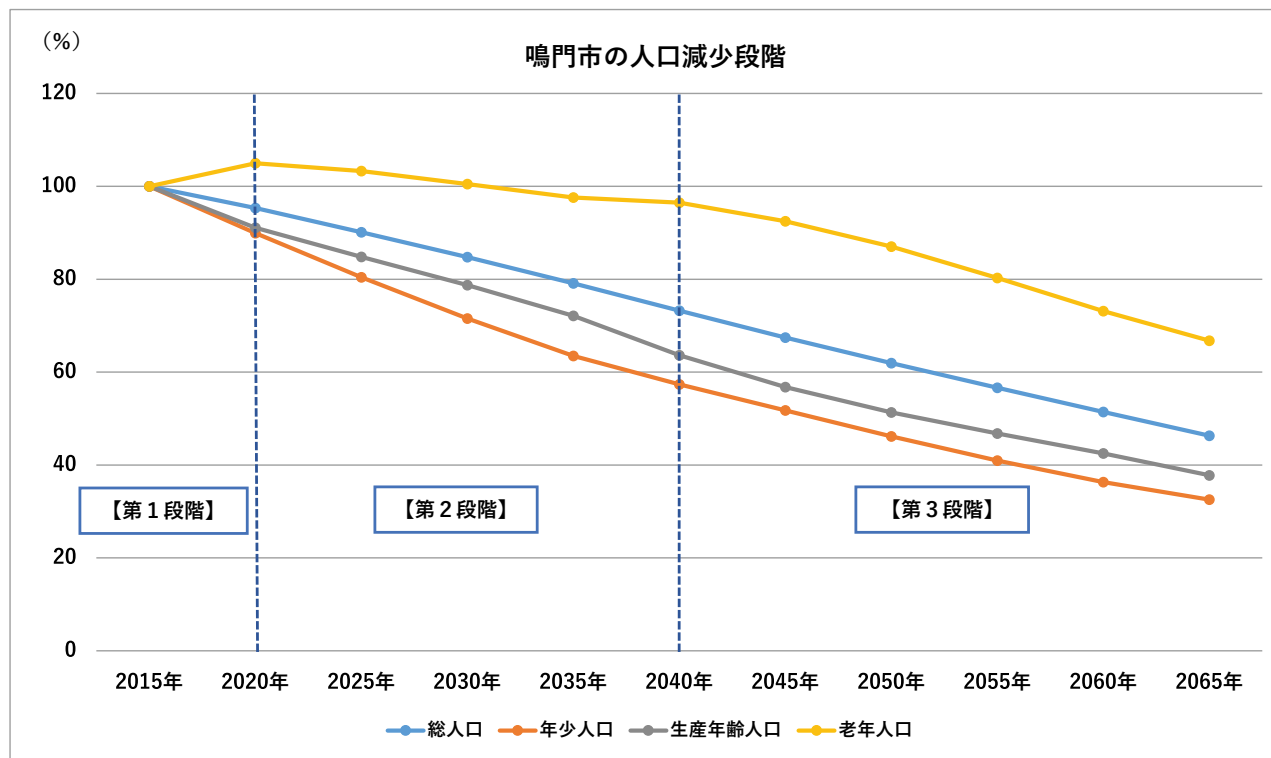


(出典) 国勢調査

鳴門市に住む人の通勤・通学先は、鳴門市が63%で、次いで徳島市19%、松茂町5%となっています。本市の近隣市町に居住する人のうち、松茂町で15%、北島町で10%、藍住町で7%の人が本市に通勤・通学していることが分かります。

第4章 鳴門市の人口推計

1. 鳴門市の人口減少段階



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」
2015年の人口を100とし、各年の人口を指数化。

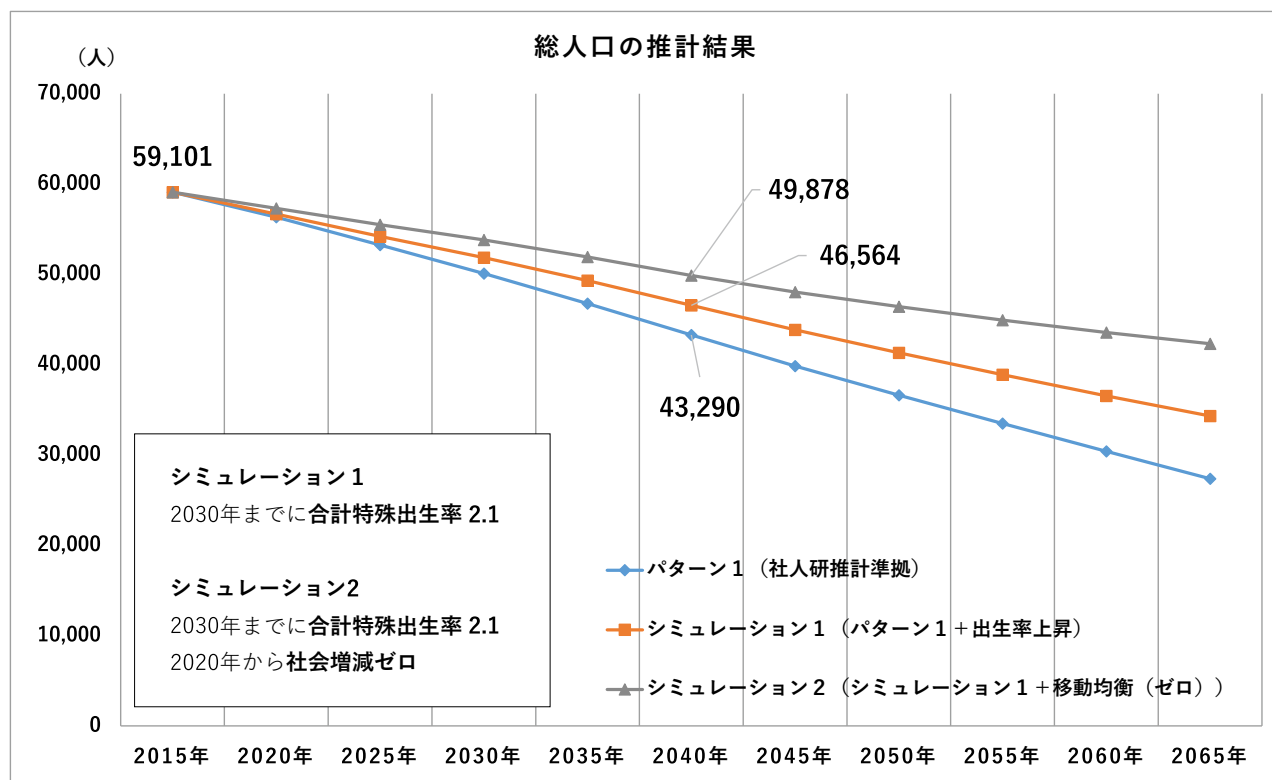
【第1段階】 老年人口増加、年少・生産年齢人口減少 2020年まで

【第2段階】 老年人口維持・微減、年少・生産年齢人口減少 2040年まで

【第3段階】 老年人口減少、年少・生産年齢人口減少 2065年まで

人口減少段階は3つの段階を経て進行していきます。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計に基づく本市の人口減少段階は、2015年を100とした場合、2020年までは、老年人口が増加・維持で推移する【第1段階】ですが、2020年から2040年までは、老年人口の減少が始まり、【第2段階】となり、2040年以降は、老年人口の減少率が大きくなり、【第3段階】に分類されます。

2. 鳴門市人口推計のシミュレーション



（注）シミュレーション1については、将来人口推計における社人研推計準拠（パターン1）において、合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準(2.1)まで上昇すると仮定しています。シミュレーション2については、シミュレーション1かつ移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定しています。

分類	計算方法	影響度
自然増減の影響度	シミュレーション1の2040（令和22）年推計＝46,564人 パターン1の2040（令和22）年推計人口＝43,290人 ⇒46,564人／43,290人＝107.6％	3
社会増減の影響度	シミュレーション2の2040（令和22）年推計＝49,878人 シミュレーション1の2040（令和22）年推計人口＝46,564人 ⇒49,878人／46,564人＝107.1％	2

※自然増減の影響度については、上記計算方法により得た数値に応じて5段階に整理
（1:100%未満 2:100~105% 3:105~110% 4:110~115% 5:115%以上の増加）
社会増減の影響度については、上記計算方法により得た数値に応じて5段階に整理
（1:100%未満 2:100~110% 3:110~120% 4:120~130% 5:130%以上の増加）

本市ではシミュレーション1，2を比較した結果、
⇒社会増減より、自然増減の方が影響が大きいことがわかります。

3. 鳴門市の総人口分析

2015年現状値と2040年推計値の年齢別内訳

		総人口	0～14歳人口		15～64歳人口	65歳以上人口	20～39歳女性人口
			うち0～4歳人口				
2015年	現状値	59,101	6,600	1,958	33,935	18,566	5,666
2040年	パターン 1	43,290	3,786	1,116	21,592	17,911	3,103
	シミュレーション 1	46,564	6,175	1,891	22,477	17,911	3,248
	シミュレーション 2	49,878	7,211	2,352	24,776	17,892	4,217

2015年現状値から2040年推計値への増減率

	総人口	0～14歳人口		15～64歳人口	65歳以上人口	20～39歳女性人口
			うち0～4歳人口			
パターン 1	-26.8%	-42.6%	-43.0%	-36.4%	-3.5%	-45.2%
シミュレーション 1	-21.2%	-6.4%	-3.4%	-33.8%	-3.5%	-42.7%
シミュレーション 2	-15.6%	9.3%	20.1%	-27.0%	-3.6%	-25.6%

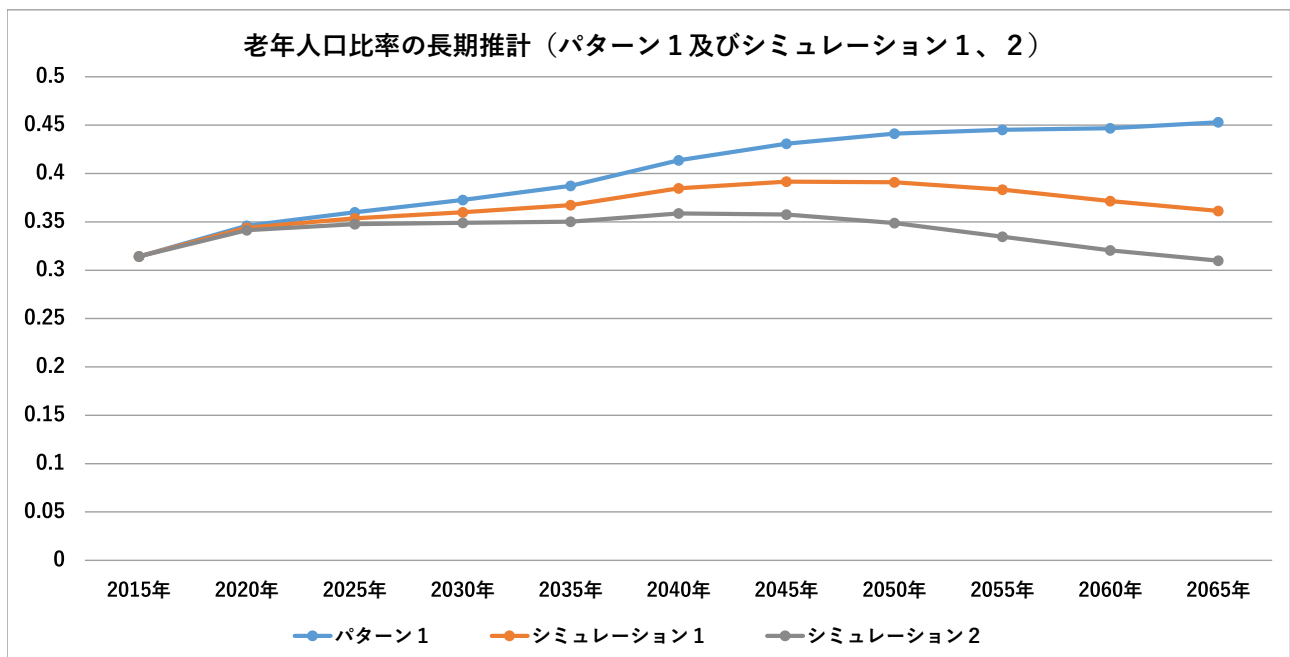
パターン 1、シミュレーション 1、2 を比べてみると、0～14歳人口はシミュレーション 1 では減少率は大幅に低下し、シミュレーション 2 では、増加に転じます。

また15～64歳人口、20～39歳女性人口の減少率も、シミュレーション 1、シミュレーション 2 では低下します。特に20～39歳女性人口は、シミュレーション 1 と 2 では減少率が大幅に下がります。65歳以上人口はどのシミュレーションでも減少率に変化がありません。

4. 老年人口比率（65歳以上）の分析

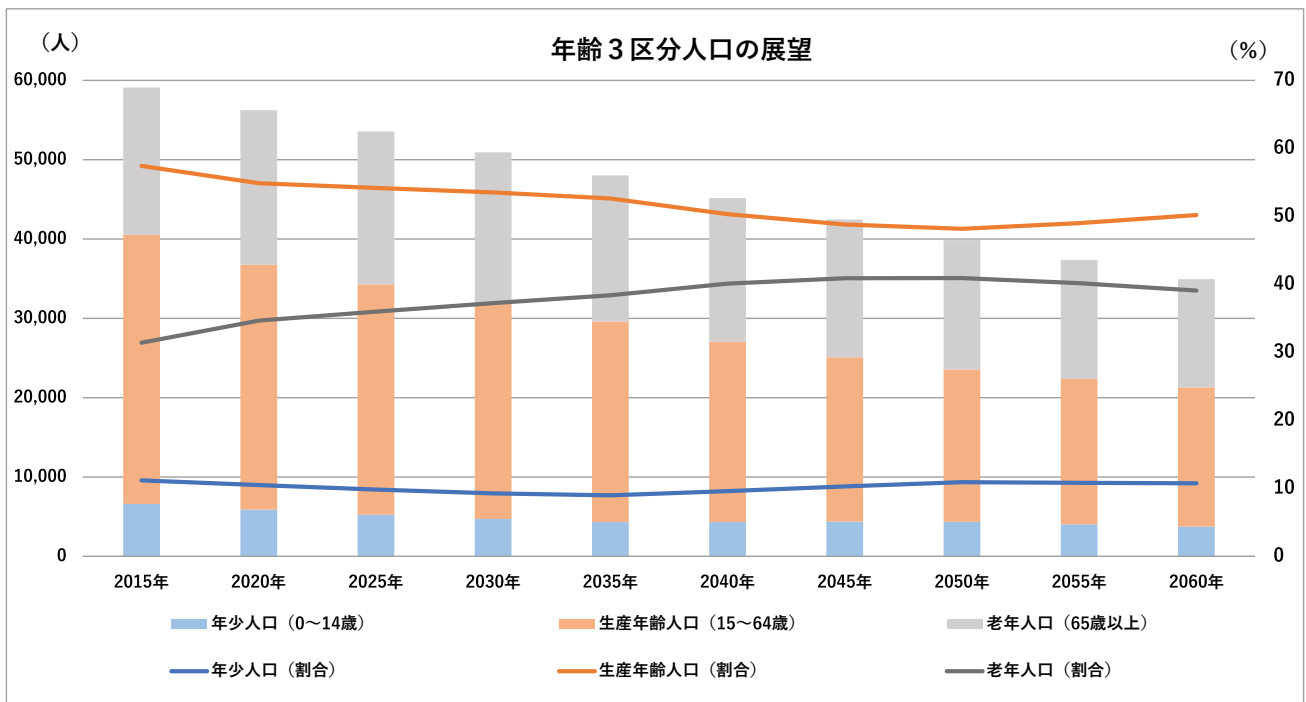
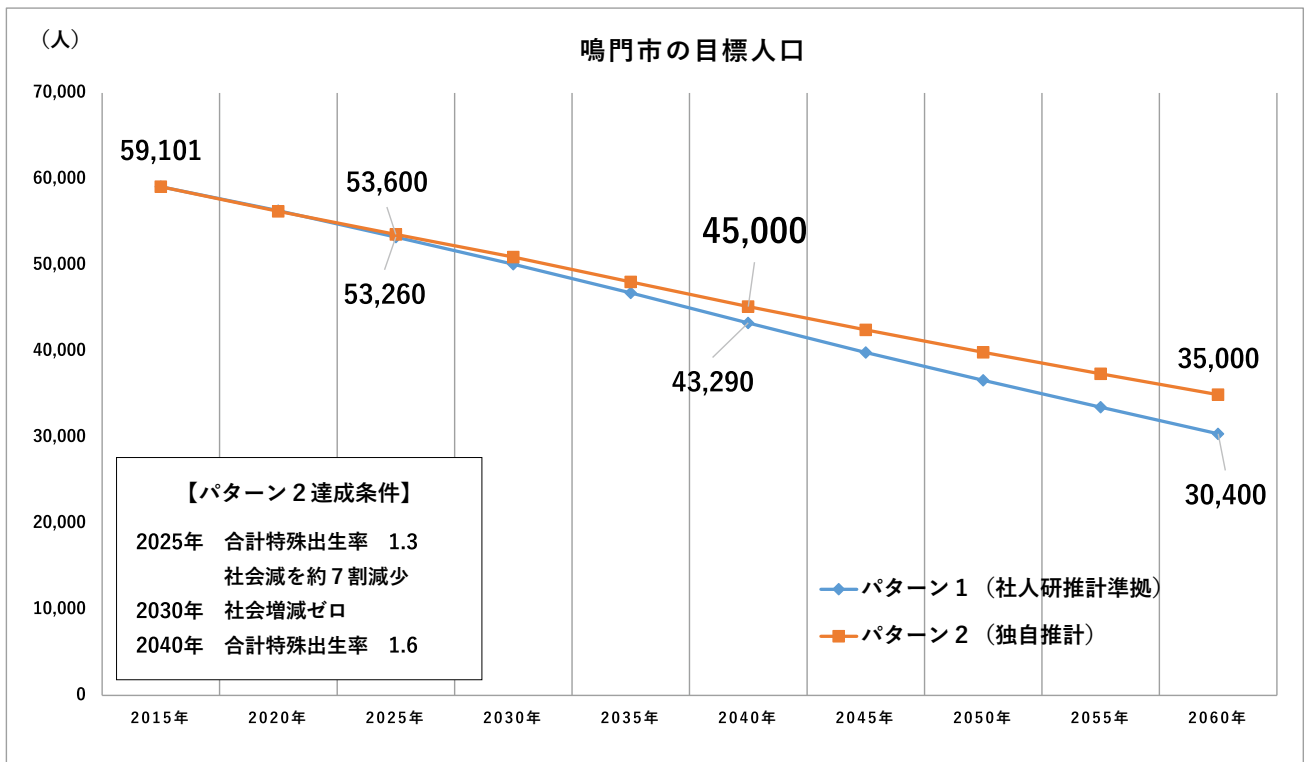
2015年から2065年までの総人口・年齢3区分別人口比率（パターン1及びシミュレーション1、2）

		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
パターン1	総人口（人）	59,101	56,332	53,260	50,093	46,773	43,290	39,852	36,616	33,480	30,397	27,370
	年少人口比率	11.2%	10.5%	10.0%	9.4%	9.0%	8.7%	8.6%	8.3%	8.1%	7.9%	7.8%
	生産年齢人口比率	57.4%	54.9%	54.0%	53.3%	52.3%	49.9%	48.3%	47.6%	47.4%	47.4%	46.9%
	65歳以上人口比率	31.4%	34.6%	36.0%	37.3%	38.7%	41.4%	43.1%	44.1%	44.5%	44.7%	45.3%
	75歳以上人口比率	15.4%	17.3%	21.1%	23.7%	24.3%	24.6%	25.4%	28.1%	29.7%	30.2%	29.7%
シミュレーション1	総人口（人）	59,101	56,664	54,203	51,855	49,307	46,564	43,849	41,316	38,887	36,550	34,316
	年少人口比率	11.2%	11.1%	11.5%	12.5%	13.0%	13.3%	13.2%	13.3%	13.4%	13.6%	14.1%
	生産年齢人口比率	57.4%	54.5%	53.1%	51.5%	50.3%	48.3%	47.6%	47.6%	48.3%	49.2%	49.8%
	65歳以上人口比率	31.4%	34.4%	35.4%	36.0%	36.7%	38.5%	39.2%	39.1%	38.3%	37.2%	36.1%
	75歳以上人口比率	15.4%	17.2%	20.8%	22.9%	23.0%	22.9%	23.1%	24.9%	25.6%	25.1%	23.7%
シミュレーション2	総人口（人）	59,101	57,301	55,494	53,822	51,937	49,878	48,049	46,428	44,939	43,562	42,316
	年少人口比率	11.2%	11.0%	11.6%	12.9%	13.8%	14.5%	14.7%	14.9%	15.1%	15.3%	15.9%
	生産年齢人口比率	57.4%	54.8%	53.6%	52.2%	51.2%	49.7%	49.6%	50.2%	51.5%	52.6%	53.1%
	65歳以上人口比率	31.4%	34.1%	34.8%	34.9%	35.0%	35.9%	35.7%	34.9%	33.5%	32.1%	31.0%
	75歳以上人口比率	15.4%	17.1%	20.7%	22.6%	22.4%	21.7%	21.5%	22.5%	22.6%	21.6%	19.9%



パターン1のままだと、2040年には老年人口比率が40%を超えますが、シミュレーション1、シミュレーション2によれば、老年人口を30%台までおさえることが出来ます。

5. 鳴門市の目標人口



上のグラフのパターン 2 は、独自推計のものであり、第二期総合戦略を策定する上での目標人口のグラフです。第二期総合戦略では、各施策を実施し、20年後の2040年目標人口を45,000人とします。

パターン 2 を達成するためには、5 年間で、合計特殊出生率を1.3に、転出超過を概ね 7 割以上減少させる必要があります。また2030年までに、転入転出者数を均衡（社会増減ゼロ）に、2040年までに、合計特殊出生率を1.6にする必要があります。

【参考① 転入・転出アンケート結果】

方法：市民課窓口にて転出届・転入届に来られた方にアンケート用紙を配布

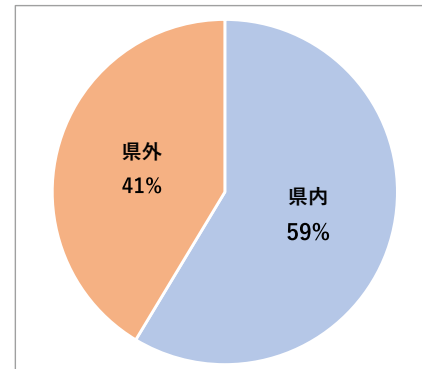
期間：2019年4月から12月までの9か月間

◆転入アンケート

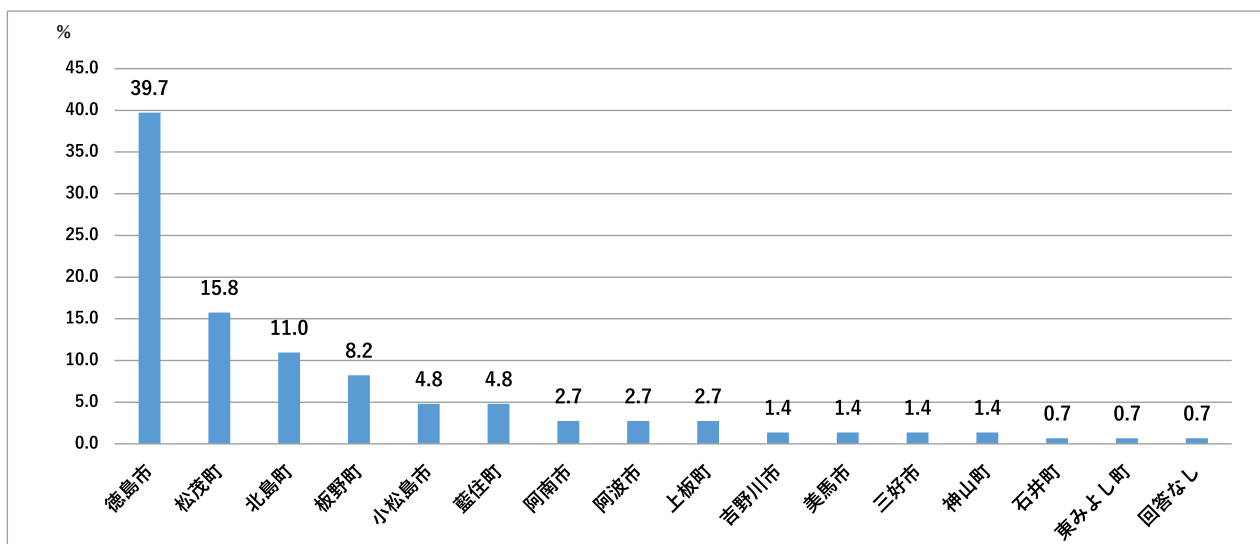
1. 転入者アンケート回答者の内訳

	男性	女性	合計
20歳未満	20	25	45
20代	38	47	85
30代	19	26	45
40代	21	11	32
50代	14	7	21
60代	13	6	19
70歳以上	4	5	9
合計	129	127	256

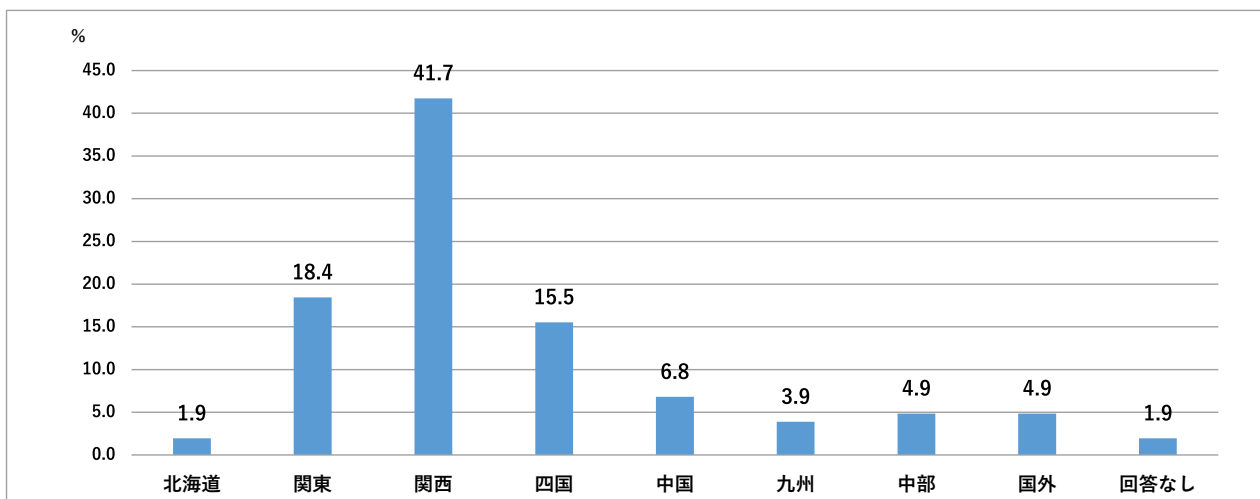
2. 転入前の居住地



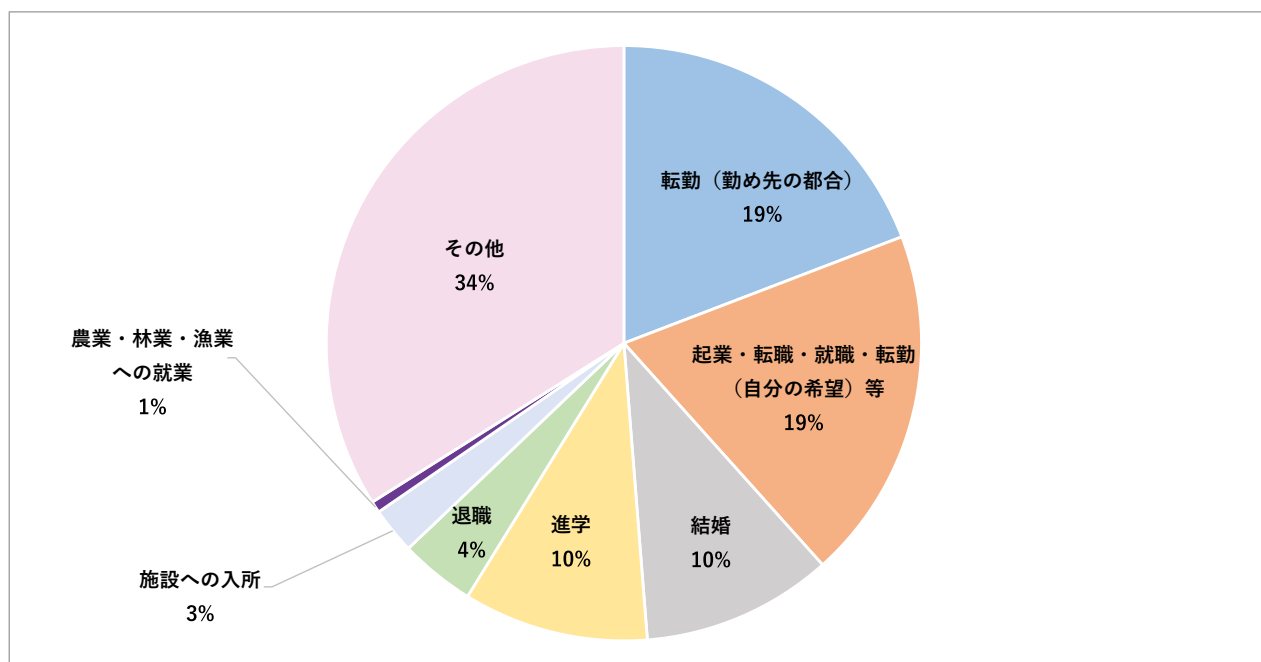
2-1. 転入前の居住地（県内市町村の内訳）



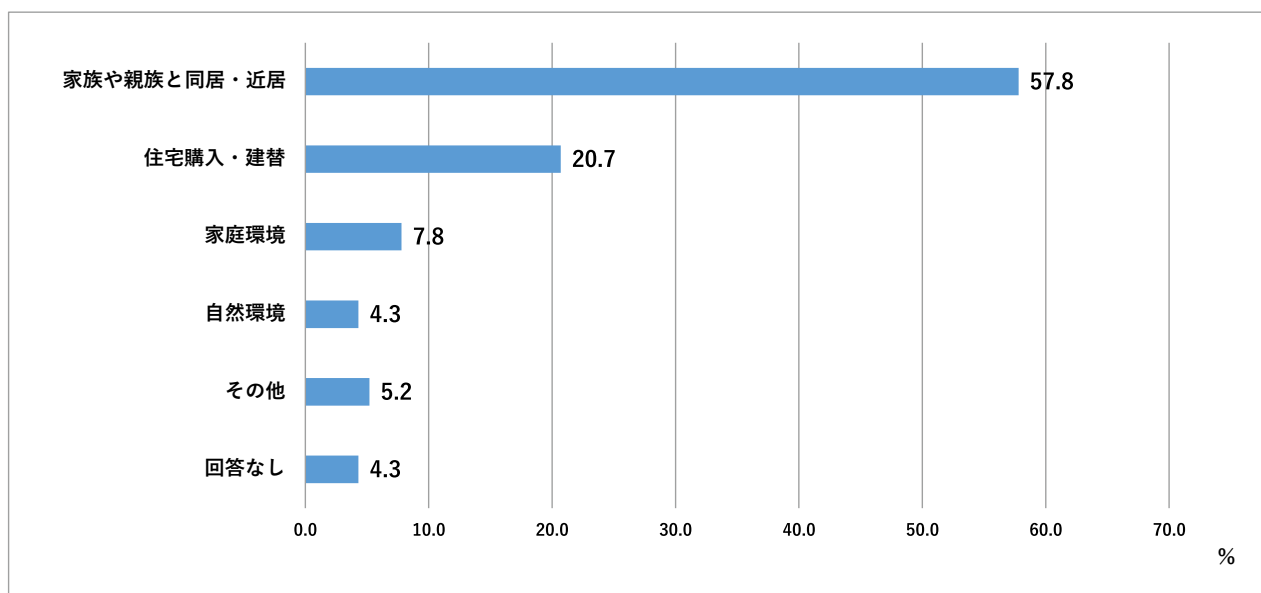
2-2. 転入前の居住地（県外ブロックの内訳）



3. 転入のきっかけ



3-1. 転入のきっかけ（その他の理由）

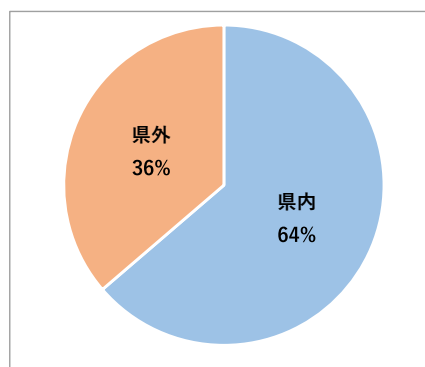


◆転出アンケート

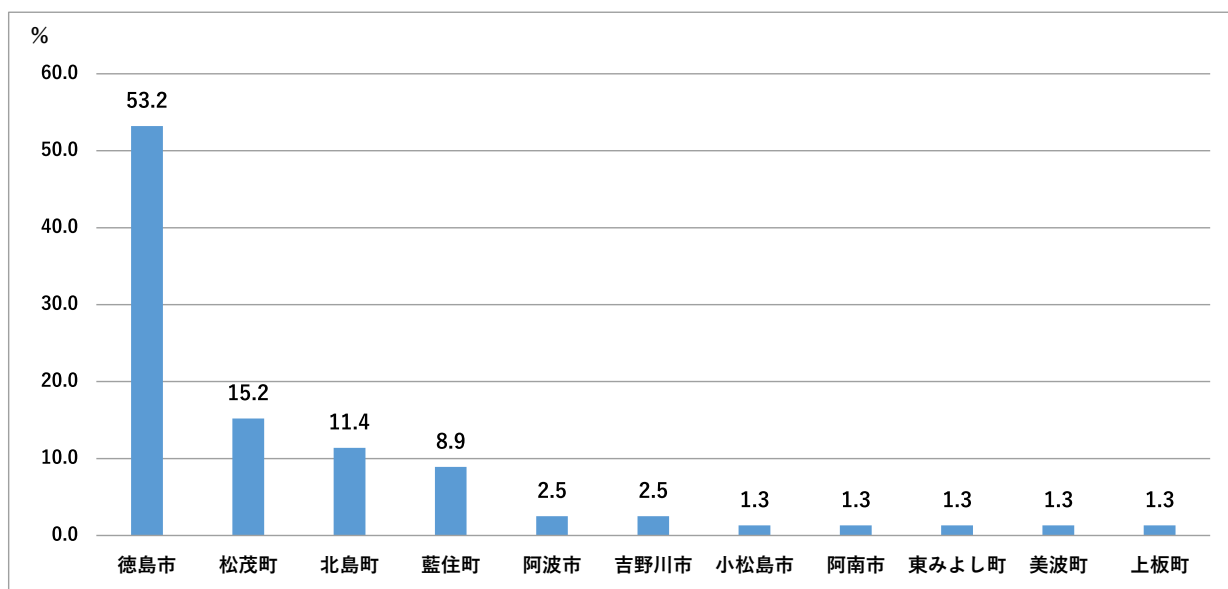
1. 転出者アンケート回答者の内訳

	男 性	女 性	合 計
未就学	3	8	11
小学生	1	0	1
中学生	1	2	3
15～17歳	0	0	0
18～23歳	6	10	16
24～29歳	12	12	24
30代	21	16	37
40代	12	6	18
50代	1	7	8
60歳以上	3	3	6
合計	60	64	124

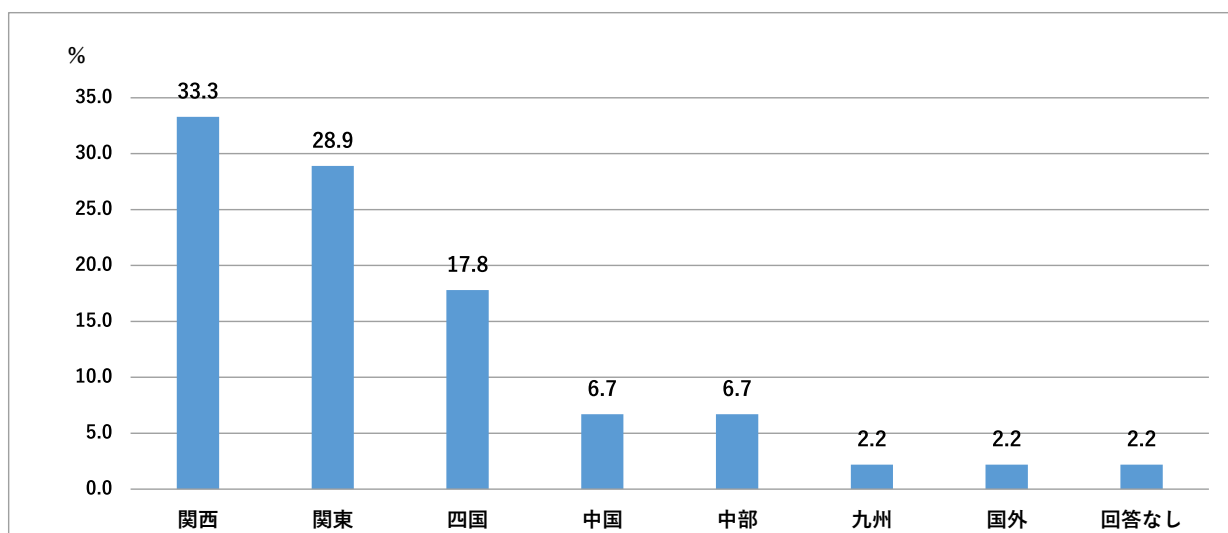
2. 転出先の居住地



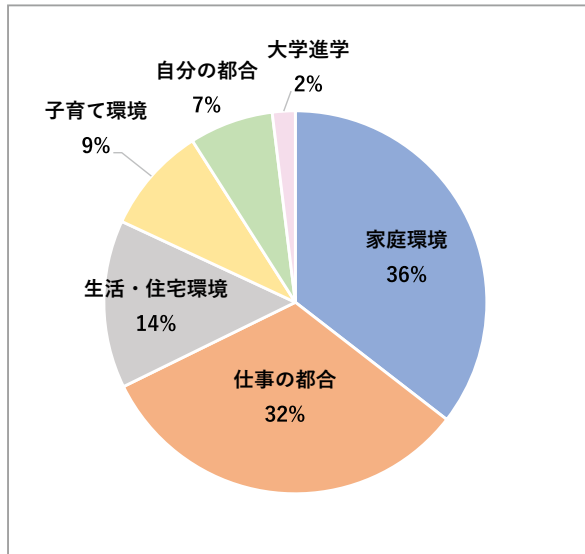
2-1. 転出先の居住地（県内市町村の内訳）



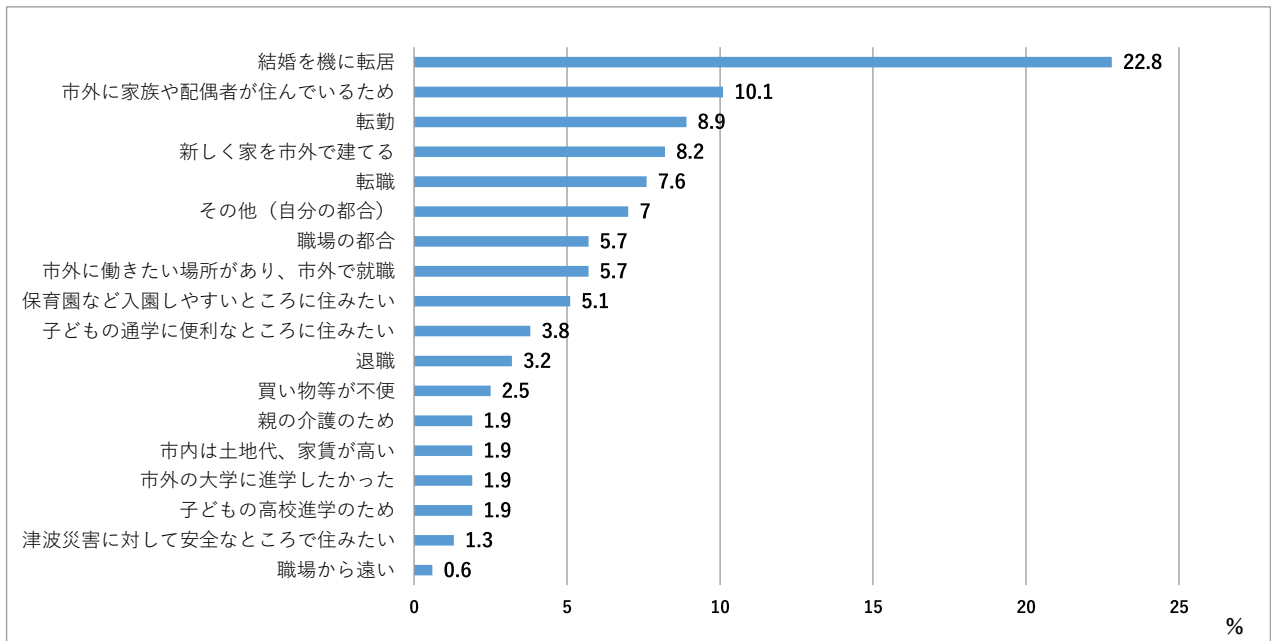
2-2. 転出先の居住地（県外ブロックの内訳）



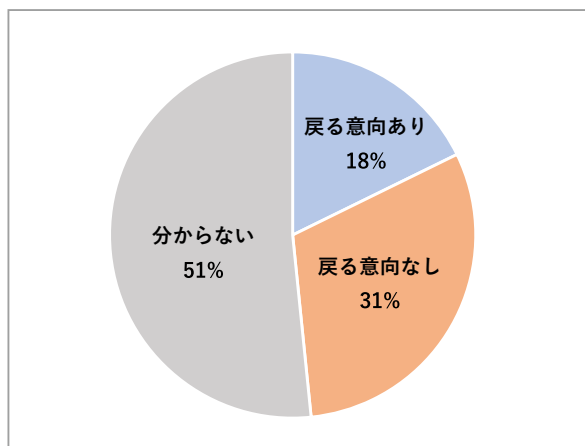
3. 転出のきっかけ



3-1. 上記の内訳



4. 将来鳴門市に戻る意向はあるか



転入・転出アンケート結果まとめ

鳴門市への転入



- ・ 県内からの転入 > 県外からの転入
- ・ 県内からの転入は、徳島市からの転入が約40%を占める
- ・ 県外からの転入は、関西圏からの転入が約40%を占める
- ・ 転入の理由は、仕事 > 結婚・進学 の順

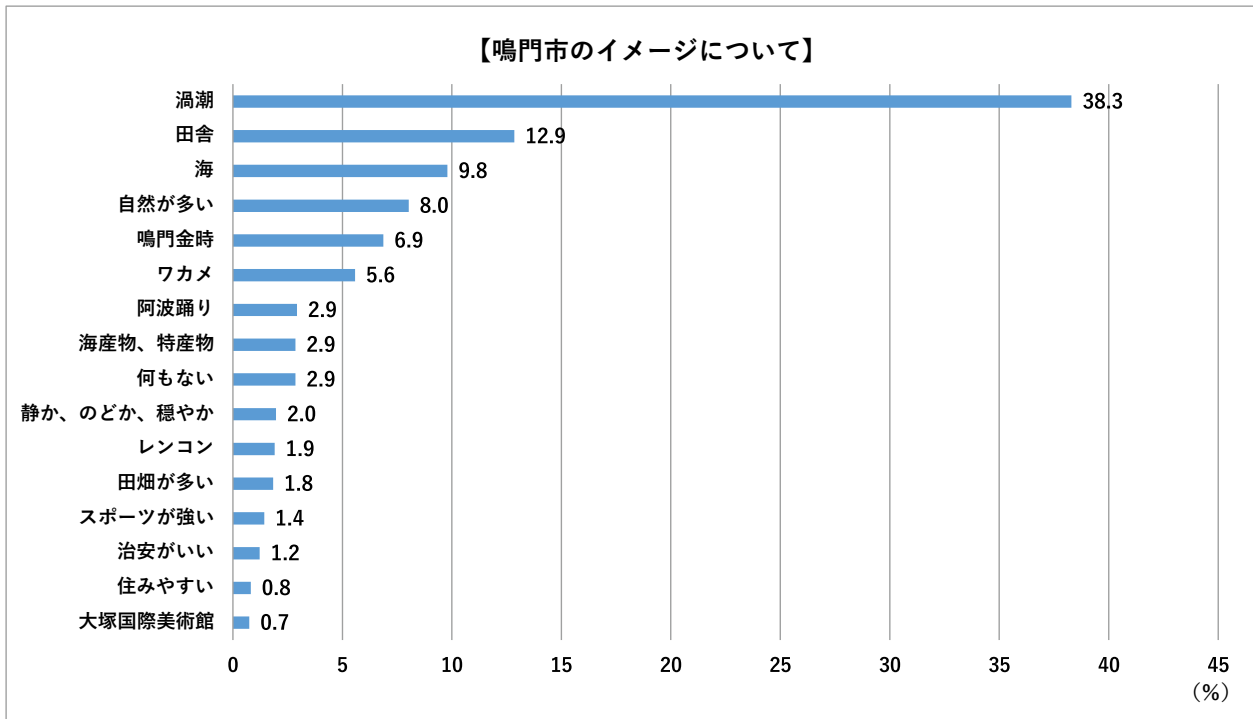
鳴門市からの転出



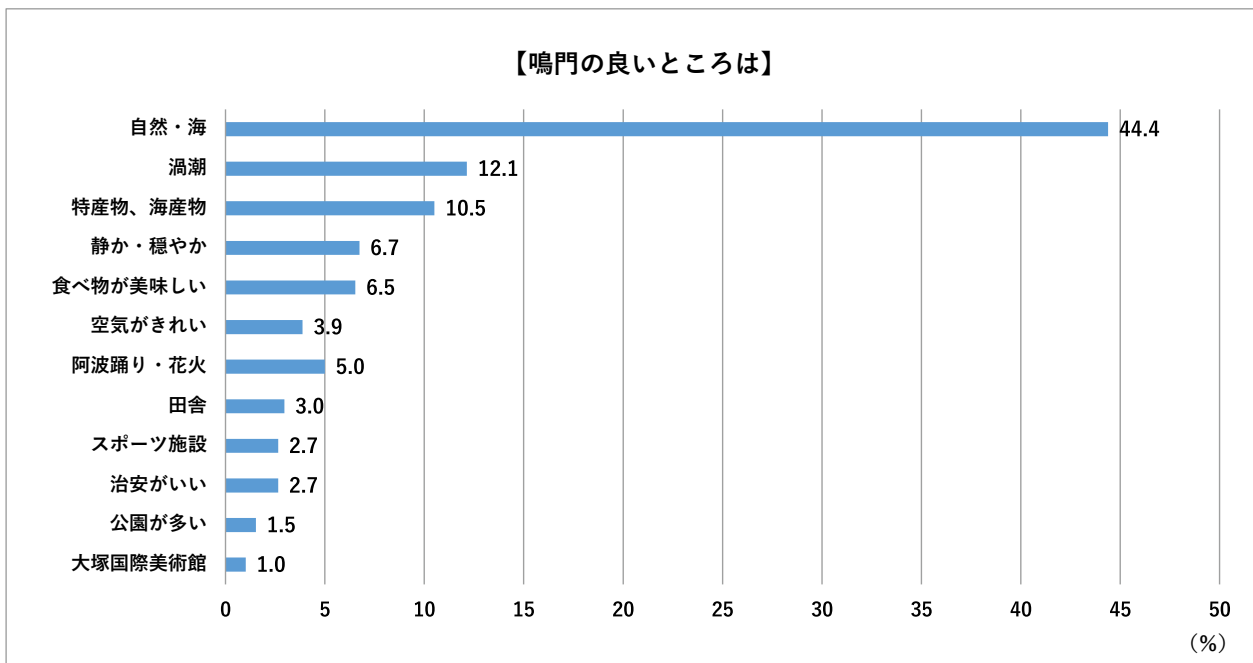
- ・ 県内への転出 > 県外への転出
- ・ 県内への転出は、徳島市、藍住町、北島町、松茂町への転出で約90%を占める
- ・ 県外への転出は、関西圏、関東圏への転出で約60%を占める
- ・ 転出の理由は、家庭環境（主に結婚） > 仕事 > 生活・住環境 の順

【参考② 高校生アンケート結果】

※「鳴門市に関する鳴門市内在学高校生アンケート調査」結果概要（県立高校1,499人）

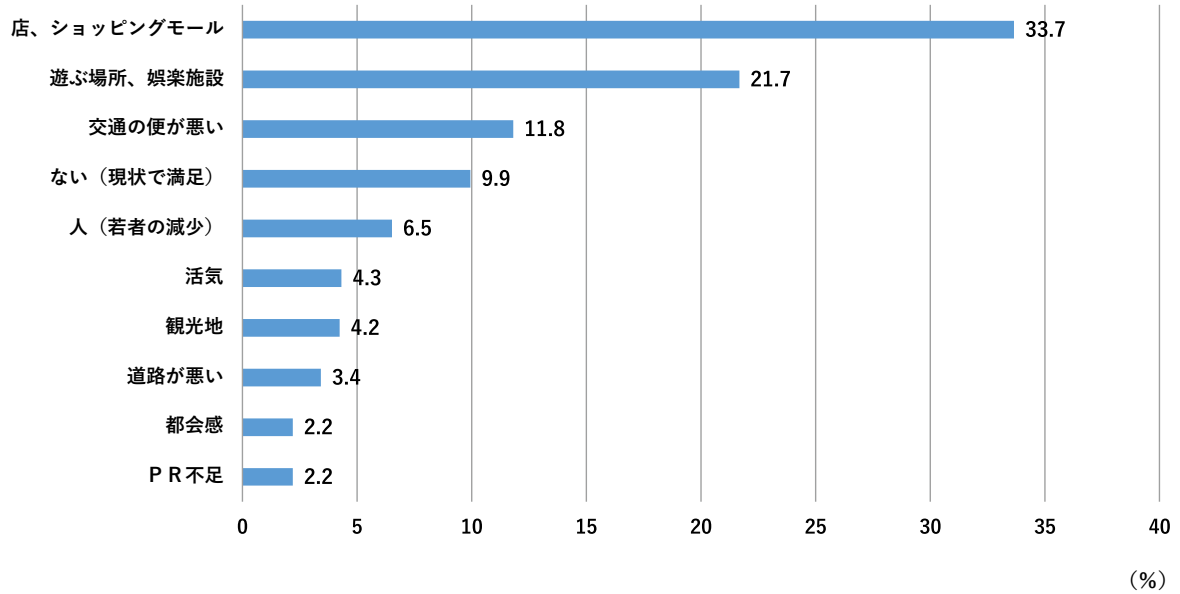


1位「渦潮」38.3% 2位「田舎」12.9% 3位「海」9.8%
「渦潮」と「田舎」と答えた方が全体の半分（51.2%）を占めています。



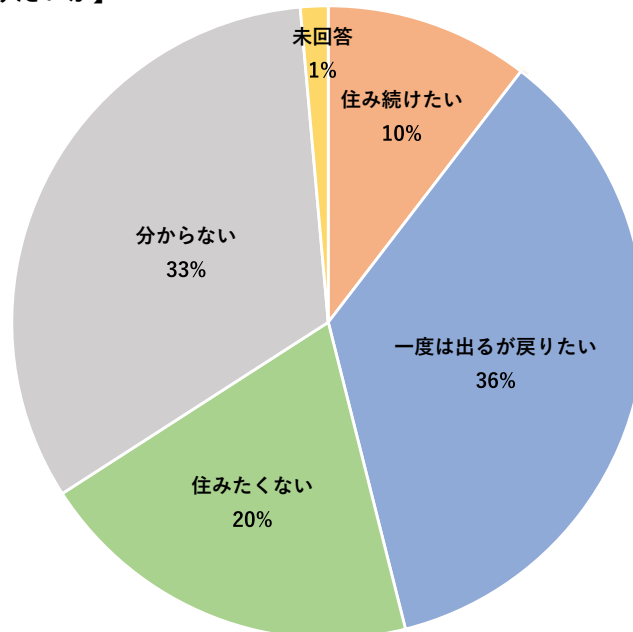
1位「自然・海」44.4% 2位「渦潮」12.1% 3位「特産物、海産物」10.5%
【鳴門市のイメージについて】でも回答が多かった、「自然・海」「渦潮」と回答した方が多く、鳴門の良さを自然の豊かさとする方が多いことが分かります。

【鳴門に不足しているところは】



1位「店、ショッピングモール」33.7% 2位「遊ぶ場所、娯楽施設」21.7%
 3位「交通の便」11.8%
 上位3位に続いて、「現状で満足」という意見が約1割を占めています。

【今後鳴門に住み続けたいか】



「住み続けたい」「一度は出るが戻りたい」が全体の約46%となっています。
 高校生の半数近くが将来も地元に残りたいとの考えを持っていることが分かります。

【参考③ 市民及び市内在勤者アンケート】

方法：市内企業に勤める方にアンケート実施

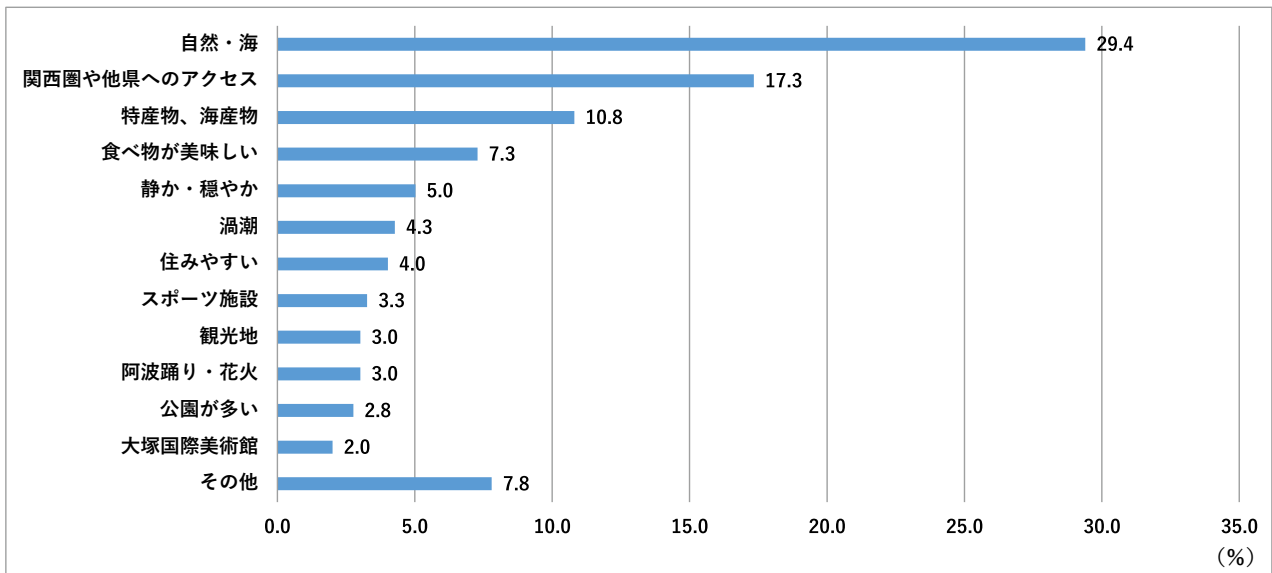
対象：市内企業に勤める市民及び市外在住の方

1. 回答者の割合

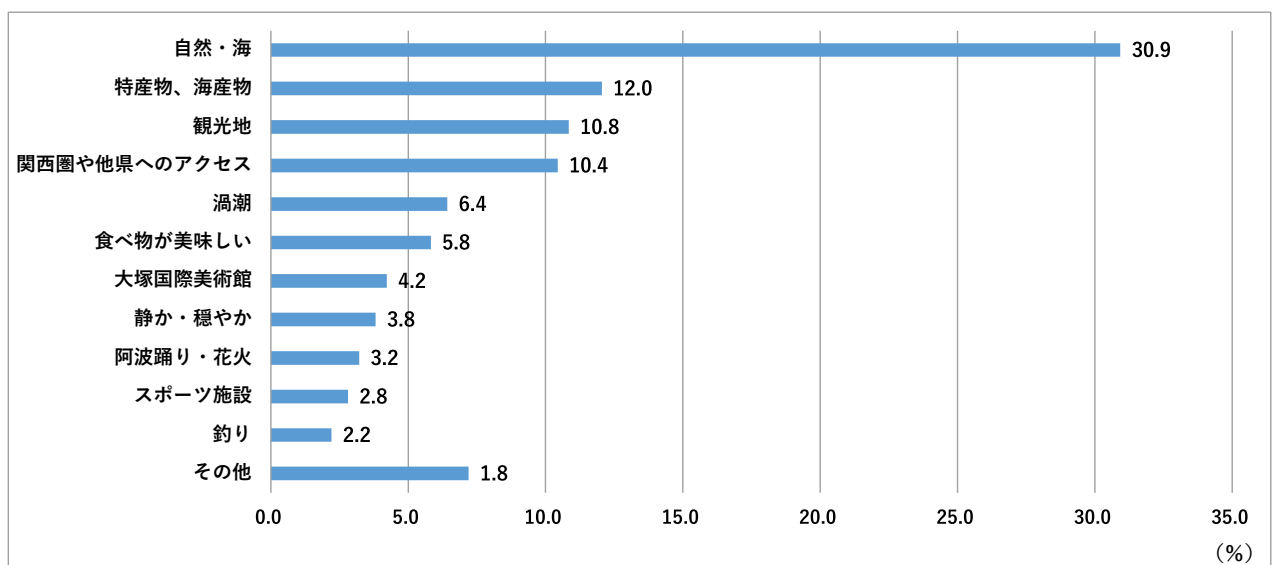
	鳴門市民				鳴門市外在住の方				総合計
	男	女	不明	合計	男	女	不明	合計	
10代	4	1		5	17			17	22
20～24歳	16	13		29	48	8	1	57	86
25～29歳	30	15	1	46	58	19		77	123
30～34歳	31	10		41	52	16	2	70	111
35～39歳	28	16		44	50	21	1	72	116
40代	56	28		84	96	41	3	140	224
50代	58	25		83	64	17	1	82	165
60代以上	47	11		58	42	3		45	103
不明	0	1		1	2	2		4	5
	270	120	1	391	429	127	8	564	955

2. 鳴門市の良いところ

2-1. 鳴門市在住の方の回答

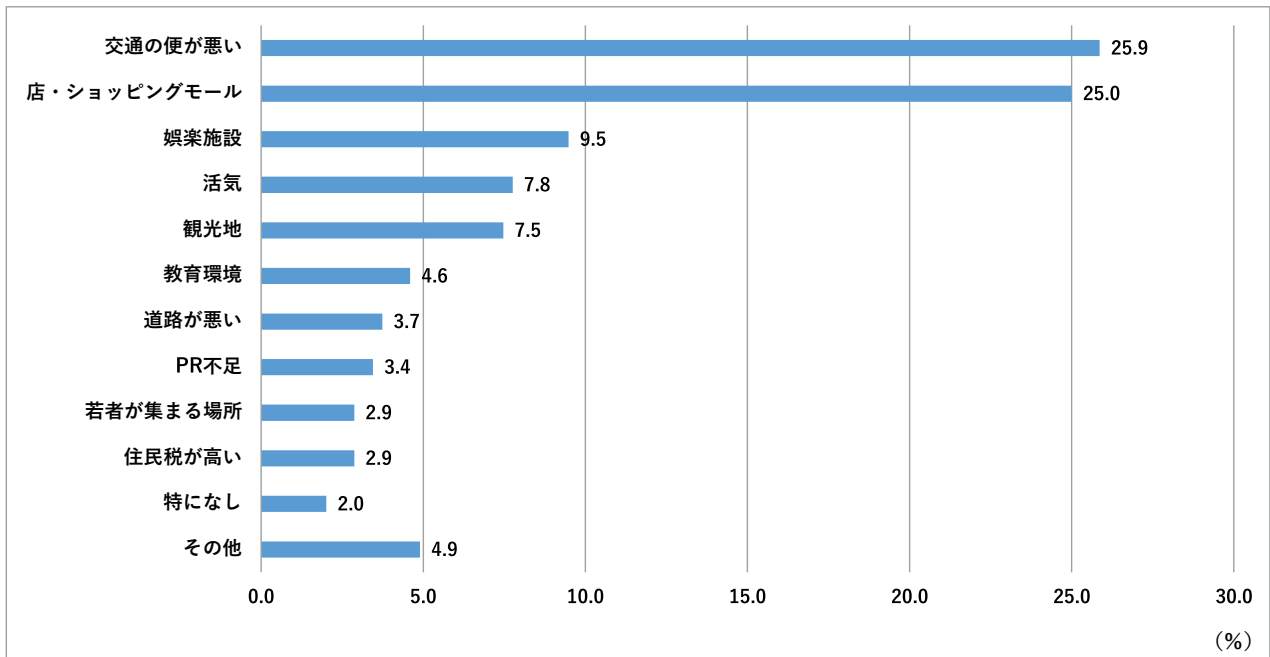


2-2. 鳴門市外在住の方の回答

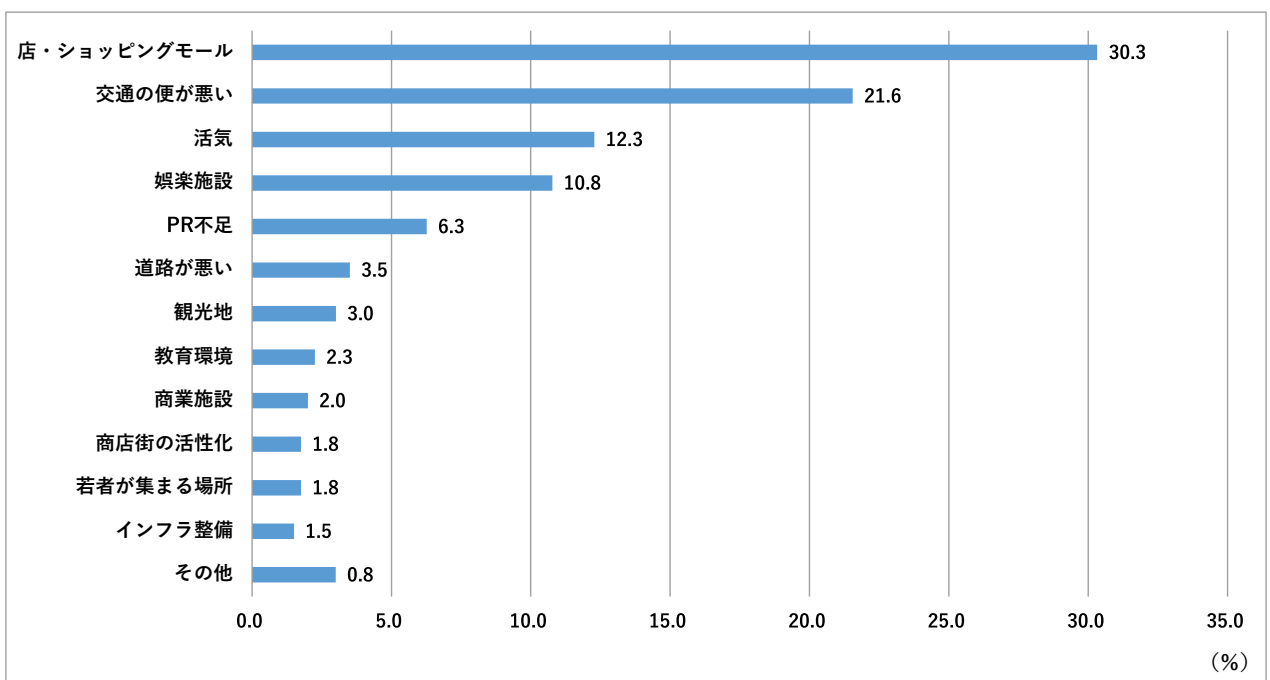


3. 鳴門市に不足しているところ

3-1. 鳴門市在住の方の回答



3-2. 鳴門市外在住の方の回答



【良いところ】

⇒鳴門で一番の強みは「自然の多さ・美しさ」

⇒市内在住の方は「関西圏等へのアクセスの良さ」を鳴門市の魅力ととらえる方が多い

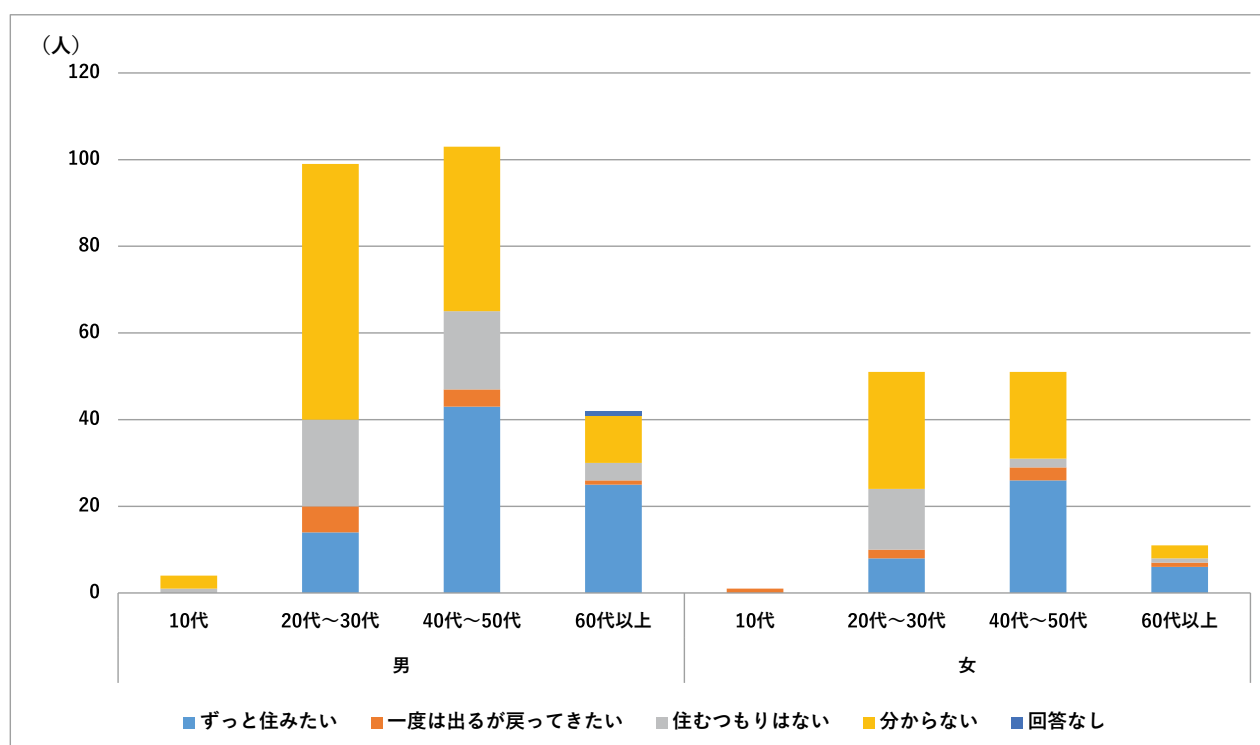
⇒市外在住の方は「豊富な海産物や農産物、観光地の多さ」を鳴門市の魅力ととらえる方が多い

【不足しているところ】

⇒市内・市外在住の多くの方が、「交通の便」「店・ショッピングモール」が不足と回答

⇒特に市外在住の方が「店・ショッピングモール」や「活気」が不足していると回答

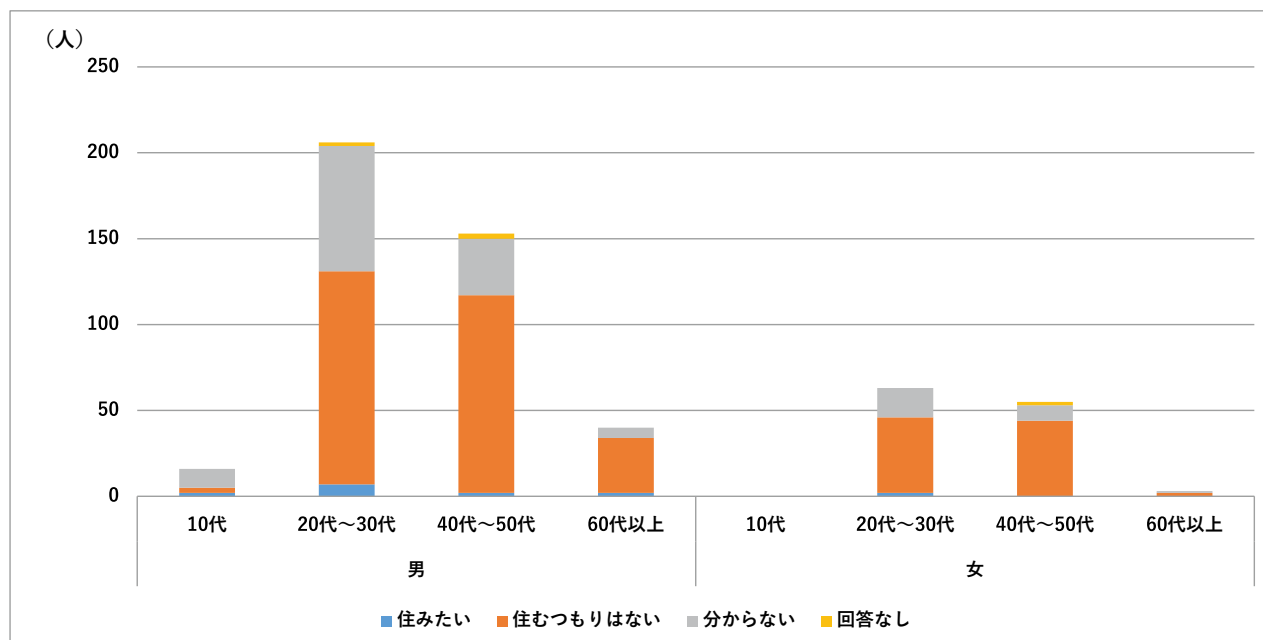
4. 今後も鳴門に住みたいか（鳴門市在住の方）



【理由】

- ずっと住みたい…家があるから、生まれ育った土地だから、住みやすい（買い物・自然・災害）
- 一度は出るが戻ってきたい…住み慣れた場所だから
- 住むつもりはない…県外出身だから、生活が不便、津波が怖い、家族の都合、子どもの教育環境

5. 今後鳴門に住みたいか（鳴門市外在住の方）



【理由】

- 住みたい…実家があるから、職場が近いから
- 住むつもりはない…既に市外に家があるから、津波が怖いから、不便だから（買い物等）
子どもの教育環境（学区制含む）、活気がない、徳島中心部から離れている

＜制作・発行＞

鳴門市戦略企画課

〒772-8501 徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜170

TEL 088-684-1120 FAX 088-684-1336